

## 総務経済常任委員会会議記録（概要）

令和6年10月2日（水）

開 会（午前9時0分）

### 【議 事】

#### ○議案第86号 第6次所沢市総合計画後期基本計画の策定について

佐野委員長

本日は、参考人として、相沢さん、山藤さんに御出席をいただいております。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して心からお礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見をお述べくださるようお願いいたします。

### 【参考人の意見陳述】

相沢参考人

おはようございます。相沢です。

幼児と児童を抱えて主婦をやっております。

何を言おうかなとすごい悩んできたんですけども、こんなところで大きな声で言う話ではありませんが、実は市役所とか、行政という人たちをあまり信用していなかったんです、1年前。大役を仰せつかって、この1年、市民として行政への信頼を絶大なものへと変化させた壮大なドラマだったなと感じています。

第6次所沢市総合計画後期基本計画の策定において、畏れ多くもお声が

けいただいたときは、「はい」と言う係でしょうと思っていました。私が言っても何も変わることはなくて、ただもう全て定められたことを読み上げるだけの機会だと思っていました。でも、それは違って、きちんと最初から録音してくださって、議事録を起こしてくださって、審議会が終了した後でも分からないことは丁寧に教えてくださって、前の日の夜には心配の電話をくれて、職位のない市民でも1として数えていただいている、大切にしているなということを考えて、希望になっていきました。

所沢市総合計画審議会にも名前を置いていただいて、「絆」ミーティングにも参加していました。こちらでは、総合計画後期基本計画の第2章、子どもが大切にされるまちのグループに加えていただいて、2児の母として、この10年間の計画のみならず、やがて地域の人たちやその子ども、その孫が歩く姿を重ねながら、たくさんの知識経験者の方、職員の方、関係団体の代表者の方とお話をすることができました。

後日、送っていただいた議事録に、受け止めてくれる関係づくりの文言を見たときは、初めての子育てに奮闘して寂しかった、泣いていた私が成仏していくような、過去の私まで受け止めてくださったように感じました。いつしか、それらは過去の私を慰める時間ではなくて、未来の誰かへの祈りの時間になっていって、改めて代表者としての責任を感じていきました。

今年度は途中で市長の交代もあって、12年に及ぶ前市長の率いた所沢

市から大きな変化を伴いながらも、基本計画にのっとなって粛々と変更が行われたように感じています。小野塚市長が就任なさってから大きく変化したこととして、中核市への移行計画がありましたが、中核市への移行を検討するに至るプロセス、地方交付税の不交付団体だったこと、今は交付団体に切り替わったことなどの解説があつて、考慮し得るマイナスの影響についてもごまかさずに開示していただいて、それらを今後の課題として受け止めて、真摯に向き合ってくださいているように感じています。

また、本来この総合計画が発足した6年前には考えられなかった新型コロナウイルスの影響を受けて、総合計画の評価指標が目標未達になった項目についても、大きな変更はしない。それほどに、この総合計画の持つ力が強いということを教えていただいて、同様に市長や職員、プロジェクトチームの異動などがあつても、大きく変わることはないということについて、改めてとても丁寧に解説していただきました。

計画所管部署、とりわけ経営企画課の皆様には、分け隔てなく知識を共有して下さったと思っています。会派からの意見やパブコメについて、市民間で争うのではなくて、あくまでも所管部署として全て受け止めてくださって、丁寧に解説、また無理にごまかそうとしないで、分からないことは素直に、持ち帰って相談しますとおっしゃっていたことが印象的でした。

冒頭、申し上げましたとおり、あまり市役所の人、行政の人は信用していなかったもので、それはそうと通しますと言われても、そういうもんか

など思っていたんですが、きちんと受け止めてくださっていることから、審議会でも意見やパブコメに糾弾したり、非難したりすることはなくて、補足ができたり、新たな気づきとして受け入れていて、穏やかに進んだことがとても素晴らしいと思いました。これらは、我々の1年をひっくり返す火種にもなりかねないと思ったので、きちんと戦いになるのではなくて、お話として、議題として相談できたことがよかったと思います。

1年間、総合計画審議会と市民検討会議に携わり、失望の中にいた私が、やがて未来の希望を抱くとは思いませんでした。可能なら、もう少し、来年も、その先も見届けたいとすら思っています。子育てがつらいです、寂しいですという一市民の嘆きが、まさか所沢市の総合計画後期基本計画素案に、「多岐にわたる子育て関連の相談先に的確につながるものが求められます。」と受け入れていただけるなんて思いもしませんでした。

私たちの、ちょっとしたそういう市民の嘆きが、今、1冊の本になって昇華されようとしていて、1年間大切にしてくださったな、ありがとうございますということはすごく強く思っています。たくさんのことを教えてください、一つ一つをないがしろにせず、取り上げてくださった審議会、検討会議の皆様及び計画所管部署の皆様に、職員の方々、心よりありがとうございます。

できればこの素案が多くの人々の支持を集めて、受け入れられて、所沢市ってきちんと市民を大事にしているんだぞという自慢の象徴として活躍してくれること、来年や、令和11年度以降も所沢市がすくすく育ってい

山藤参考人

く一助となりますことを心からお祈りしております。

おはようございます。山藤と申します。

生まれは、実は所沢市ではないんです。別の市で生まれ育って、結婚を機に、何のゆかりもなかったんですけれども、この所沢市に住まいを構えて、約20年ぐらいですか、子育てをしまして、長男は今年の春で就職をして、私の中ですごく大きなトピックだったんですけれども、我が家を出て一人暮らしを、他府県へ転居をして引っ越していきました。そのまちで、初めて、その子にとっては別のまちで暮らすという経験をしてみて、改めて所沢市のどんなところがよくて、どんなところが悪くてというところを、体験として多分学べるだろうなということを、期待も込めて送り出したつもりです。年末には戻ってくると思うんですけれども、帰省してくると思うんですけれども、そのときにこういったお話を親子でできればいいなとは思っています。

2つ目、後期基本計画案策定までに市民検討会議でどのような点に力点を置いて議論を交わしたかというのは、私の立場でいうと2つあります。

相沢参考人もおっしゃっていましたが、審議会に入る前に「絆」ミーティングという、少しソフトなほうのミーティングでも意見を交わしたんですけれども、私もそこで気づいた、もやもやとしていた部分があるんですけれども、同じ班の中のある方が、やっぱり財政状況が見えづらいと、市の財政というのは今こうなっていますよ、こういう分野にこれぐら

いお金を使っていますよというものがなかなか分かりづらいということ  
と、可もなく不可もなく、市民として暮らしていくという部分には、小さな不満であったり何だっったりというのは、きっと皆さんそれぞれお持ちな  
んでしょうけれども、そこがなかなかお金とのリンクがしにくいねという  
ところを、「絆」ミーティングでその方から気づかせていただいて。

審議会の中で1つ、私がお話をしていたのは、やっぱり財政状況という  
ものをもっともっと市民に分かる形で、ホームページに載っていますよと  
か、どこかの市の設備の窓口にこういうものが置いてありますよというこ  
とじゃなくて、もっともっと積極的に市民の皆さんに、市の財政状況とい  
うのはこうなっていますよということを、計画でこういうことをこれから  
市政としてやっていきたいと思えます、これにはこれぐらいのお金をかけ  
るつもりですというものを、もうちょっと間断なく、その情報が一人一人  
の市民に届くような形というものが、何かやり方としてないのかなという  
ことを、私は発言してきたつもりです。

もう一つが、「絆」ミーティングでも感じたんですが、私、多分総合審  
議会の中で、多分私が最年少クラスの年代だったと思います。総合審議会  
に委員として参加されている各ポジションというか、各分野の専門家の先  
生たち、皆さん、諸先輩方が、私、今56歳なんですけれども、それより  
も上の年代の方たちというものの意見はああいう場できちんと提示され  
て、議事録にも残って、計画案にもそれが反映されているんですけれども、  
この計画が実施されて、まちが変わり始めてといったときに、そこで現役

として暮らす若者世代たちの意見というものは、聞く場がないんじゃないのかなというものを強く感じたので、子どもを大切にしますとかというお題目を掲げているのであれば、その若者世代たちの意見をもっともっと聞く場を設ける、もしくは出向いて行って、学校のどこかでやるとかいう形で、分かりやすく説明をして、その場を設けることによって、若者世代たちも多分意識が少し変わる子が出てくると思うんです。

言ったって変わんねえよとかということじゃなく、先ほども冒頭申し上げましたように、可もなく不可もなく暮らせるまちであることは確かなんですけれども、じゃ、このまま何もしないで、自分たちが現役になったときに、10も20も上の人たちが決めたことでまちはつくられていてというので本当にいいんですかということを探ねることによって、若者たちの意識も変わるんじゃないかということを探期待したくて、そういった意見を私は中心に述べてきたつもりです。

3点目、市長の交代に伴った計画の変更点についてというものの、基本的に第6次総合計画の中の後期をどうするかというお話の場だったので、計画全体という点では大きな変更点はありませんという説明が所管部署からまず冒頭にあって、ただ1つ、やっぱり市長選の公約であった中核市を目指すんだという話が、私の認識ですよ、いきなり来て、それじゃ、中核市になることによって、市民にとってどんなメリットがあり、どんな課題が解決されるのかということが、いまいち具体的に説明はされていないと。目指すのはいいんですけれども、目指した結果、どんな利点が、市民

一人一人の生活にどういったものが影響として及ぶのかというところも何もなしに、説明が進んでいくような危惧を感じました、正直。

確かにいいこともたくさんあると思うんです。それによって、負の部分というものもやっぱりあると思うんですね。大きな点として、様々な権限の委譲であったりというものはあるんですけども、それが、何度も言いますけれども、市民一人一人にとってどんなことにつながるのと、どんな困り事が解決に近づくのというところの論点が何もなく、何か保健所をつくれるようになるんですよとか、何だかんだという話はあるんですけども、それでどうなのという話がどうも軽く位置づけられているような気がして。

市長選の公約に掲げて、それでも当選したんだから、それを目指すんだという、何か言葉は不適切かもしれないですけども、もう単純に思考停止に至っているんじゃないのかなという気はします。そうでないんであれば、もっと具体的に市民の皆さんに、中核市を目指すところということになるんですと、今までできなかったこれができることになって、それが一人一人の生活の場でこういう形で表れますよという説明がない以上、何か中核市を目指すことが目的になっちゃっているんじゃないのかなという気がして、私はなりません。

会派からの意見やパブリックコメントに示されたという点は、これは多分総合審議会でも私も指摘をしたんですけども、この議案書によると、80のパブリックコメントが寄せられて、計算の仕方というのはいろいろ

な考え方があるんでしょうけれども、項目の立て方、この質問はこの点についてのコメントですよという点で集計をすると、評価指標に対するコメントというものが約13あって、もうほかをぶっち切って、群を抜いて評価指標に対するコメントが多いんですね。それは、総合審議会でも私は感じました。

定量的に第三者が測れる数値で目標が設定されていないものが散見されていたり、これは果たして評価指標なんだろうかというものであったりとか、あとはもう市役所の所管部署の主観で評価が決まっていることとか、それはあなたたちがやりましたと言えば、これは100点満点なんですかと。やることが目的なんじゃなくて、やった結果、それはどうなったんですかというところを定量的に測れる指標を設けないと、それは評価指標とは言えないんじゃないですかということを審議会でも指摘しました。

ここは、実際に後期総合計画にどれくらい反映されているのかというのは、最終的に議員の皆さんにも承認をいただいて、これが後期総合計画ですというものが出たときに、私は確認をしようかなとは思っています。

その他、御自身の考えや思いは反映できたかという点、まだこれ確定しているものではないので、反映できたかどうかという質問に関しては、今それを言うことはできないですと。反映されているかどうかも分からないので、確定してからのお話ですよと。

あと、もう一つ、これは経営企画課の皆さんの努力は素晴らしいものだったとは思いますが、途中からこの運営の仕方は確かに変わったんですけど

れども、最初に「絆」ミーティング1回目、2回目とか出て、総合審議会にも1回目出て、そのぐらいのタイミングで経営企画課の方に、私、話合いが終わってから帰り道、帰る途中で指摘をしたんですけれども、継続して回数を分けて審議会なり「絆」ミーティングというものをやるのであれば、それは、次の回は皆さんにこういうことをやってもらいますよと、こういう意見を述べてもらいます、そのやり方はこういうやり方を考えていますということを具体的に告げてからじゃないと、行ってみて、今日こんなことをやるんだというものが、1回目、2回目ぐらいに続いたんですね。

そうすると、「絆」ミーティングにしても、総合計画審議会にしても、開くことが目的なんですかと。そうじゃないですよと、開いて、せっかく、私は比較的勤務先の理解があるので、こうやって日程を組むのは容易なんですけれども、ほかの委員の皆さんというのは、それぞれ日程をやりくりしながら会に出席してくださっているんで、その時間を有意義に過ごすためには、次の回というのはテーマはこれで、それに対しては出席者の皆さんにこういったことを考えてきてくださいというものを、次のタスクというものを具体的に示して、次へ次へというふうに進んでいかないと、毎回毎回行き当たりばったりで、何か今日こんなことを言わなきゃいけないのというところが感じられたので、会の運営の仕方という意味では、もう少し再考の余地があるのかなという気がしました。

そこを、私も直接告げて、途中から次回は何月何日ぐらいの、何月何日の予定ですと、次はこういうことをやりますので、皆さん考えてきてくだ

さいねということが、経営企画課の皆さんから次の回への案内というところで話があったので、やっぱり聞き入れてくれたんだなというのはすごく強く感じました。

なので、こういった形で市民の何人かから代表して市政に反映させるために意見を募るのであれば、それをより実りの大きなものにするためには、もう少し計画性を持って、皆さんから次にこういうことをやってもらいたいんですということをきちっと書面にもうたって、案内のときには何回も何回もそれをお話してということを、実施する運営側としては、それを心がけていただきたいなというものを強く感じました。

**【参考人意見陳述終了】**

**【参考人への質疑】**

大石委員

本日は、参考人としてお越しをいただきましてありがとうございます。

これまで参考人が、第5次と第6次の前期のときに来られていますけれども、本当に分かりやすい説明でありありがとうございました。

まず、小野塚市長になって、給食費の無償化とか、それから高校生までの医療費無償化というのは実現したが、今後、中核市への移行が予定されているが、私たちの議会が最も心配しているのも、先ほど、お話があったとおり、持続可能な財政運営ができるかどうかというのがすごい私は思っている。

そこで、財政状況については何か少し説明があったというふうに聞いた

が、以前素案の段階で松本経営企画課主幹に質問したら、財政についてどのような説明を、審議会とか「絆」ミーティングでされましたかという、あまりされていないというふうに聞いたが、先ほどの話だと、もう少し、どの程度説明があったのか。

中核市移行では幾らぐらいかかる予定だとか、それから中核市になったら保健所で幾らかかる予定だとか、それから今、給食費無料化と、実現する前だったかもしれないが、医療費無償化では高校生で幾らぐらいかかるだとか、所沢市の財政状況はこうで、こんな形でという説明はどのくらい、お二人に教えていただければと。どのような説明があったのか、またどのような議論があったのか、もう少し詳しく説明していただければと思う。

山藤参考人

結論から申しますと、具体的な数字を示して、今こうなっていて、こういうふうな形を想定していますよというものは、資料の提示も含めて、私の記憶ではなかったというふうに記憶しています。

おおよその額に関しては、部分的に御説明は経営企画課の方からあったという部分も記憶はしているんですけども、それが、具体的に細かく、詳細にわたって、現時点で経営企画課が把握している財政の状況というのはこういうものと、例えば先ほど大石委員からもありましたように、何かをつくるためにはこれぐらいかかる予定ですという説明はなかったというふうに記憶しています。

相沢参考人

小野塚市長が就任なさってから、総合計画審議会があったのは1回だったかと記憶しております。そのときに説明があったのは、どのぐらい人がかかるのか、人間に対するコストに対しての説明はありました。保健所をつくるに当たって、こういう人が足りないとか、こういうことをやっているから、また人材は引っ張ってこななきゃいけないとか、こういう人的コストについての説明は確かにありました。

ただ、数字に関して、財政状況、お金に関しての説明は確かにちょっと少なかったかなとは感じています。

大石委員

お二人に聞きたいが、それぞれ評価指標というものが、各項目、各節とかである。先ほどの山藤参考人の御意見、私も同様に申し上げてきているのだが、評価指標というほかに、前期の場合は事業目標というのが各項目で、各基本方針のところで事業目標があったが、この事業目標というのが、今回、数値目標みたいなものがなくなってしまっている。大体、私も第5次からこうやって審議させていただいているのだが、どんどん今、総合計画に記載される事項が少なくなってきてしまっている。

ちょっとさすがに書かな過ぎじゃないかということは、第5次の時代から知っているのですが、申し上げてきたが、特に事業目標がなくなったのは、検討会議とか「絆」ミーティングの中で、指標が多すぎて分からないので整理したというような形の話なのだが、実際、この指標とか事業目標というのは、審議会とか「絆」ミーティングでどのぐらい議論されたものなの

か。

山藤参考人

どれぐらい議論されたのかというと、曖昧な言い方で申し訳ないんですけども、それを中心に徹底的に意見を交わしたということは、私の記憶ではなかったです。どちらかというと、どうしてもそういう傾向になってしまうんですけども、私も自分への戒めも含めてですけども、こういう数値指標に関する議論というのはどうしてもネガティブチェックになってしまうので、ここがおかしいんじゃないかとか、これはどういうことなのとかという意見に偏りはあったかなと。

私も企業人ですので、自分の勤めている会社でよく話になるのは、一番理想的なのは、こういう指標系というものは、それに実際主体となって行う人たちのポジティブな目標として、みんながその情報を共有できるようになるのがいいよねと。ノルマのように、ここまでやらないと何か罰則があるとか、何か格好悪いことになるかというための指標でないようにしなきゃ駄目だよねということで、私は事業目標という書き方がなくなったということに関しては、期待も込めて、役所の皆さんがこういう評価指標の持ち方のほうが、自分たちはやりやすいんだ、仕事がやりやすいんだということであるならば、これは別にこれでいいんじゃないのかなという意見です。

相沢参考人

今、大石委員から御指摘をいただいて、そういえば、一番最初に参加し

たときには、事業目標という言葉聞いたなということは今思い出しました。

目標の指標に関して、印象に残っているのは、新型コロナウイルスで大きく未達になってしまった項目についての変更はしないのかということ、計画が発足したときには危惧し得なかった、想定外の事象が発生したときに、変更しないのということをたしか質問した覚えがあります。それについても、特に変更はなくやっているので、事業目標についての開示もされなくなっていったよということなので、そういうふう動いているのかなとか、あとは経営企画課用に、審議会用に別の資料が作られていて、そちら側ではまた別途、事業用の指標が示された、また資料があったりするのかなというふうには感じはしましたが、事業用の数値はなくなって、ただ、私たちが気にするのは、確かに市民のほうの評価指標だしなということで納得した覚えはあります。

大石委員

山藤参考人に確認したいのだが、審議会の委員のほうから、事業目標というのがたくさんあり過ぎて、多いから、なくして減らしたほうがいいのかというふうな御意見だったのか。

山藤参考人

あまり記憶は定かではないですが、審議委員出席メンバーのほうから指摘して、こういう表記の仕方はやめたほうがいいのかという意見が出たという記憶はないです。

大石委員

たしか、執行部の説明では、審議会のほうで意見が出たから、事業目標をなくしてきたというような説明があったのだが、それはまた後で聞くとして。

市民意識調査とか、市民アンケート、冊子があるが、あれはどのくらい活用されたかなと思う。まとめて質問するが、お二人に聞きたいのだが、まずまちづくりという観点から、この素案の段階での記載というのが、所沢駅周辺だけに一極集中するようなまちづくりの書き方だと私は思っているのだが、素案の段階では。今、案になって、修正されてきているが、この所沢駅周辺に一極集中する考えのような方針なのだが、御議論はどのような形であったのか。

あと、例えば新所沢パルコの跡地が、非常に今、新所沢周辺に住んでいる人たちにとっては大きな問題、課題なのだが、私が申し上げているのは、課題のところにどうしてそういうことを書かないのかということ、市民意識アンケートにも非常に、新所沢パルコの課題は早く解決してほしいとか、商業施設をつくってほしいとか、それから市長の公約にもきちんと書いてある、新所沢パルコ跡地問題に取り組むというのは。それなのに、課題についても書かれていないというのは不思議でならないのだが、市民意識アンケートはどうだったのかということ、アンケートについてどのような御議論を参考にされたかということと、それから所沢駅の一極集中に対する考え方は議論があったのかということ、併せて新所沢パルコの跡地と

山藤参考人

かについての御議論はあったかどうかというのを教えていただきたい。

1つ目の御質疑の市民意識調査、そういったアンケートの結果がどれぐらい審議会の場で持ち込まれて、この部分の意見に関してはこういう形で計画に反映しようという議論は、なかったわけではないです。

ただ、どうしても私の主観ですけれども、全体の第6次総合計画の後期4年分なのでという暗黙のプレッシャーのような、ここでいきなりこの話を持ち込むのという、前期とのバランスだったり、何だったりというものが、私だけかもしれないですけれども、なかなかそれを途中でこういった話を持ち込む、このときにこういう意見が出たから、第6次総合計画の中では全然うたわれていなかったけれども、これをやろうというのは、ちょっとはばかれるというような暗黙の空気感というのは私は感じていました。

あと、所沢駅周辺の一極集中という話に関しては、私も正直、私以外の審議会の出席メンバーでも、三ヶ島工業団地の話であったり、角川のところざわサクラタウンの話であったりとかいうことは、たくさん意見は出ました。それは、経営企画課の皆さんも、確かにそうですねと、そういう視点はちょっと足りていないかもしれないですというやり取りがあって、それを後期基本計画にどういう形で持ち込むのかというものは一旦持ち帰らせてくれというものは、話としてはあったように記憶をしています。

確かに、新所沢駅周辺は、私の生活圏なので、審議会の場でも意見は出

ました。パルコの跡、どうするのと。具体的なビジョンも何もないよというところは意見は出たんですけども、その時点でビジョンとして具体的にこうしますというのは、なかなか民間も絡む話だったりするんで、市としてこうですというのはなかなか言い切れないんだろなというのは私は感じていましたので、課題として認識していないというわけではないと思います。それをどうしたらいいのかというのが、短い期間で、数少ない審議会の中で、具体的に断定的にこういうことをしますというのはなかなか言いにくかったんだろなというふうに、私は好意的に解釈はしています。ただ、課題として捉えていただいているということは分かりましたので、今後、期待して見守ろうとは思っています。

相沢参考人

市民意識アンケートについてですが、まず審議会に入る半月くらい前に、たくさん自宅に送られてきたように記憶しております。そちらを事前に目を通しておいて、当日聞きたいことがあったら一緒にお話してね、メールでも受け付けていますよということで、自分で読んでおいて、気になることは自分でやってねというのは、御案内はしていただいております。

ただ、山藤参考人もおっしゃっていましたが、審議会の間では市民意識調査アンケートから、このページから何があったみたいなぐらいの話はあまりなかったかなと。ただ、みんな事前に資料を読み込んでいらっしゃる方が多く見受けられてまして、その資料を読んで、こういうことあったよ

ねというお話の仕方では議論が進んでいったようには見受けられます。

まちづくりの素案では、所沢駅中心ではとのこと。確かに、エミテラス所沢が開業して、今そちらにすごく意識が持っていていかれてしまって、パルコの跡地がちょっと放っておかれているように感じてはいます。それについても議論は出ていて、ただ、パルコの跡地が民間側、お店の都合でなくなっていった撤退していったのか、それとも市の開発の都合で撤退せざるを得なかったのかみたいな、どっちが優位に動いた結果、撤退になってしまったのかな、今、廃墟になってしまったのかなというのは、ちょっと分からないまま、恐らくこちらで断定するのが非常に難しいお話だったのではないかなとは思っています。

大石委員

第6次総合計画の後期基本計画が、この年度になったのは、前期は6年にしたからなのだから、それは市長の任期に合わせて、市長公約なども含めた総合計画に変更しやすいように、任期を2年、前期は6年あったわけで、市長選挙の後に、その総合計画を決定していくというようなプロセスにしていこうということで、前期は6年、後期は4年でこの10年間の計画になった。

先ほど、お聞きすると、空気感が漂っていたということだが、基本構想全体の中で、なかなかそこまで発言しづらいところがあったようなニュアンスを、感じを私は受けたが、市長公約をどのくらい入れようとか、中核市以外のところで、あまり素案の段階で入ってきていなかった。

例えばふるさと納税を、物をもっと強化して、推進していくというのも、議会答弁ではもう去年からしているのに、市長が替わって、12月定例会からそういうのをし出しているのに、総合計画の素案に入っていなかった。だから、不思議だなと思って、それはやるともう言っているのだから、書いて、取り組んでいきますというふうにすればいいだけなのに、素案の段階に入ってきていなかったのだから、あまりその辺、議論がなかったのかなと思ったが、「絆」ミーティングの中や、もしくは審議会の中で、たった1回だけだったのか。

だから、どのような説明があったのかということと、特に中核市以外のところで御議論があったところはあったのか。

山藤参考人

ちょっと印象的な出来事、私、すごく強く印象に残ったことが、「絆」ミーティング、第何回だったかは覚えていないんですけども、ちょっと御紹介します。

私たちの活動の途中で市長選があり、市長が替わるという形に、事実としてなりました。これは、ほかの委員の皆さんがそう感じているかどうかというのは別ですよ。私としては、新しい市長がきつとこの「絆」ミーティングの冒頭にお見えになられて、冒頭にいらっしゃるだろうと。第6次総合計画の後期を今やっている。どういう形にマイナーバージョンアップしていくかという議論を、市民の意見を取り寄せている場だよということを御理解しているはずですよ、市長からすれば。

挨拶に来られたんですけれども、何も発言されませんでした。私は、ものすごくがっかりしました。何かおっしゃられるかなと思ったんです。前市長が定めた6年分の前期を引き継いで、後期、先ほど大石委員もおっしゃられたように、私たちも何度もそれは言われました。10年を5年、5年で前期、後期を分けるんじゃないなくて、市長選があるから6年、4年というアンバランスな分け方になったんですという形で、新しい市長になりましたと。それは、いいことなのか、悪いことなのかというのは、市民が選挙で選んだものですので、いいんですけれども、であるならば、何か一言あってしかるべきだったんじゃないのかなというのを、私はすごく強く違和感を感じたので、すごく印象に残っています。

特に、市長選で総合計画に入っていない公約を掲げて、それが当選をしたということであるならば、私はこの公約を掲げて選挙で選ばれましたと、ぜひそれを実現したいので、皆さんの御協力をお願いしますとかいう形で、短くてもいいので、何か言うべきだったんじゃないのかなというふうに僕は強く感じたということをお答えとして示させていただきます。

相沢参考人

市長交代があってから、恐らくお会いしているのは2回だと記憶しています。「絆」ミーティングで1回と総合計画審議会で1回だったかと記憶しています。

「絆」ミーティングのときは、たしかお忙しいのでここでと言って、あっさりとお帰りになってしまったかなと。そうですね、私もちょっと物足

りないなというのは感じたと思います。市長のお忙しさは、ちょっと私には分からないので、それでも忙しい合間を縫って来てくれたと思えば、それはすごい好意的なことだったとは思いますが、確かに総合計画審議会において、市長公約、こういうのを掲げましたんでよろしくねというプリントが1枚あってもよかったかな、新しい市長になって。

市民として、選挙前に調べることは確かにあったので、うっかり失念していましたが、そういえば、審議会においてそのような資料はあってもよかったんじゃないのかなとは思いますが。小野塚市長は、ちょっとお忙しいのかなといった印象を受けました。あまり、いらっしゃらなかったかなと思います。

大石委員

市長公約につきましては、ほとんど中核市以外は議論されていないというのがよく分かった。

それでは、最後に相沢参考人に、子どもが大切にされるまちづくりから、子どもを中心としたまちづくりというふうに、市長が替わる前からこうなっていたのか。

それから、今聞いていて不思議だったのだが、1回だけでこういうふうになかなかならない。子どもを中心としたまちづくり、たった1回のミーティングと審議会で、子どもを中心としたまちづくりに文言が変わっていたのかということと、そのほか、子どもを中心としたまちづくりというのを中心に掲げていく、ど真ん中に置いていくのだったら、どのようなこ

とをもっと所沢市はやったほうがいいのではないかとということが、どんな御議論があったのか、教えていただきたい。

相沢参考人

市長が替わって文言が変わったとのことですが、恐らく第5回の総合計画審議会において、子どもを中心としたまちづくりという文言に変えてしまった場合、我々おじいちゃんはどうなるんだいということを、たしか審議会で発言された方がいたように思います。その文言が変わることについての、どういう文言にしようかという相談は、たしかなかったかな、あるいは私が聞いていなかったのかもしれないんですけども。

市長が替わって文言が変わって、こういうふうになりましたという議事録が送られてきて、その次の会で、この文言についてはもうちょっと再考の余地があるのではないかという議論が、議事録にもたしかあったかと思われま。

それらも含めて、もうちょっと回数は参加したかったかな、もうちょっと回数があれば、1回当たり2時間ぐらい、たくさんの方のスケジュールを調整してやっていることなので、毎週やろうよというわけにはいかないとは思いますが、もうちょっとお話ができたり、参加する場があったり、それこそもうちょっと今はメールとか、直接顔を合わせなくても文面のやり取りをするツールがたくさんあるので、そちらでもうちょっとリアルタイムで調整があってもよかったかなとは思っています。

子どもを中心としたまちづくりについて、私も個人のやっていきたいな

と思うこと、高齢者に対する補助というのかな、正しい日本語か分かりませんが、高齢者に対してたくさんつくられている政策を、そのままとは言わないですけれども、もうちょっと分けてくれてもいいなとは思っています。

ちょうどタイムリーな話、子どもたちのお母さんたちとお話をして、今一番ホットなのは、インフルエンザワクチン予防接種の補助です。高齢者の方は、65歳以上は1回1,500円ということで補助が出ているんですけれども、所沢市と、あと埼玉の主要都市、幾つかに関しては、子どもたちに対しては一切の補助がなく、しかも13歳未満は2回接種があるんですね。そうすると6,600円で、お母さんも一緒に打ってねと言われると、1回1万円とか、そのぐらいになっていって、ちょっとびっくりしてしまう数字になっていくんですね。

全額補助してくれとは、もちろん言わないです、特に、今新しい薬が作られて、経鼻接種になるフルミストもあるので、やり取りがすごく大変になっていくことはあるとは思いますが、子どもたちが狭い教室、それは幼稚園も学校も含めて、狭い教室でわちゃわちゃやっているところで、感染を防ごうねというのは、先生たちだけのお力ではちょっと無理があるんじゃないかと思うので、そういう予防接種に関しても、意識の高いお母さんたちが頑張るのではなくて、もうちょっと補助があったり、あるいは高齢者の方と半分ずつにしてみようとか、2回目は少し安くなるよとか。今、瀬戸病院かどこか、そのあたりが自分の病院で打ってくれ

ば、2回目安くしますよという、民間側から、病院側から、やっていいよ、うちでやるといいよというサポートはしてくれているんですけども、市として子どもを大事にしていくというのであれば、そのあたりも御検討いただければなと思います。

ただ、保育園には入りやすくなりました。全入になりました。先日、医療費の補助が高校卒業までになったオレンジ色の新しい票が届きました。たくさん変えてくださっています。今、すごい動いているんだなというのは感じているので、こちらも恐らく検討待ち、順番に考えてくださっているんだろうなというのは感じています。

あと、これはすごく小さいことかもしれないですが、子どもたちが自転車の練習をする場所が欲しいなと思っています。公道に出て、特に私の住みか、山口なんですけれども、途中、山を切り崩して造ったエリアになっているので、急坂、狭い道、それから駅付近になってくると住宅の再開発が進んで、すごく見通しの悪い道、ぼこぼこの道、そういったところで子どもたちが自転車で道路に出ていくといったところで、いいよと言うのをすごく言いづらかったです。

例えば、近くにある教習所をお借りできないかなとか、何曜日はやっていいよとか、ちょっと気をつけようねみたいな日があったりすると、子どもたちがこうやって外に出て、子ども同士でもっと外で遊びやすくなる、もっと生活がしやすくなるかなというのは、ちょっと今、児童と幼児がいるお家なので、視界がそのぐらいにはなってしまうんですけども、順番

に御検討いただけたらなというのは思っています。

福原委員

私のほうからは、そもそも論で恐縮だが、この第6次総合計画の後期基本計画の策定に当たっての審議をしていただいたわけなのだが、立てつけとして基本構想があって、基本計画があってという、そういうそれぞれの役割があると思う。

今回、皆様に審議いただいた後期基本計画の、御意見をいただいたり、議論していただくという場面の中で、この後期基本計画の中に策定すべきものというか、この後に実施計画があって、具体的にそれをどう実現するかというところの計画がこの後にあるわけなのだが、今回は後期基本計画という位置づけとして、大きな目線で決めていくというか、具体的には次に決めていくという場面がある中で、この基本計画の中で策定すべき項目というのは、今回の案の中で、この部分が足りていないのではないかな、もしくはこういうふうに変えたほうがいいのではないかな、もしくは章立てが幾つかあるわけだが、章立てがこれだと分かりづらいとか、市民目線でももちろん結構なので、皆様の視点から見て、まず計画のつくり込み方とか、中身的なものの総合的な判断でいいと思うのだが、何か御意見があればお聞かせいただきたい。

山藤参考人

基本計画に網羅していただきたい項目の中で、これが決定的に抜けているよねという印象は、私にはないです。欲を言えばという話じゃないです

か。もう、何でもやってほしいということにはなっていくので、その取捨選択というものをおざなりにされているなという印象も全然ないです。大切な財源を、優先順位をつけて、市民のためにということで組み立てられた計画書だなというものは、ページのあちこちから感じ取れていますので、そこに対するストレスというものはないです。

あとは、章立てで分かりやすい、分かりにくいというものは、基本的に私の考えとしては、こういった類の文章をどれぐらい読み慣れているかというものによって、その印象というのは変わらなと思っているので、この書き方が所沢市の総合計画の書面なんです、書式なんですということであるならば、これは私は徹底してこれを突き詰めていって、市民に慣れさせるというほうが、私は近道なんじゃないかなというふうに考えてはいます。難しい書き方であったり、章と節の違いって何なんだろうとかというのは、私は基本的な知識の問題だと思っているので、そこに対して、この書き方はないだろうという印象は、私、個人的にはないです。これでいいと思っています。

相沢参考人

基本計画を策定するに当たり、さらに追加したいこと、スポットライトを当ててほしいところということで、聞き間違いがあったら申し訳ないです。

全体的に、私も西側に住んでいるので、全てのことを知っているわけではないですけども、それでも、所沢市全域についてたくさん書いてあっ

て、これを読んでいくと、私が知らなかったこういうことがあるんだなということも確かにあったので、広い範囲で網羅していただいて、今までたくさん大人の大人たちが関わってきたんだなというのは感じます。

ただ、山藤参考人のお話で冒頭ありましたかね、大人たちはたくさん関わっています。そのお話を聞く項目が、子どもたちとか、もうちょっと話が分かる子どもたち用に、それこそ分冊でもいいので、子ども用のもうちょっと平仮名が多い冊子があって、学校にそれとなく置いておくとかがあると、もうちょっと市民全体で受け取りやすいし、こういうことをやっているんだな、私のところも順番待ちなんだなと思うことができるんじゃないのかなとは思っています。

項目がすごく細かく分かれていることについて、私は、そうしたらもう一個上のすごく大きな目標をばんと表に書いてほしいなと。こういうふうにします、そのための手段として、章を7つに分けていただいて、すごく細かい節に分けて議論が進んでいっている中で、つまりどうするんだろうと。

「絆」ミーティングのときにたしか感じたのは、章ごとのゴールはありましたが、所沢市全体としてのゴールがみんな共通のところを見ているかということ、同じところを見ているとは感じませんでした。それぞれ章のゴールは確かにありました。子どもを大切にするためのゴール、健幸長寿にするためのゴール、それぞれの章についてのゴールはありましたが、では、つまりどうするのということ、いい感じにしようぐらいの目標しか見え

なくて、このままだと手段が目的になってしまうのではないかなといったところを感じたかなと思います。議論の中に追加していただきたいのは、そういったところかなとは思いますが。

粕谷委員

今日はせっかくなので、ちょっとお二人にお聞きしたいなと思うのだが、こうやって後期基本計画に関わった中で、率直に、今まで個々にちょっと触れたところもあるのだが、もし仮に、自分たちの子どもがこの所沢市に住む、孫がまた所沢市に住むとしたときに、この所沢市がどんなまちになってほしいのかなという、また、その課題もあれば、自分の率直に総合計画をやっていく中で、そんなこともちょっと思ったのかなと思ったのでちょっとお聞きしたい。

山藤参考人

これも「絆」ミーティングか、総合計画審議会で、私、意見を述べさせていただいたんですけども、若年層というか、若者、結婚したてで子どもが1人いる、いないとかという形で、新居を構えるというときに、選ばれるまちであってほしいなど。

日本全国の共通課題として少子高齢化というものが言われていて、もうここからは多分、多分というか恐らく、間違いなく、もう現役世代をどれぐらい市に確保しているかというところが大きな分かれ目になるんだろうなというふうに私は感じていて、千葉県かどこかにもものすごく若者たちを転入させる、選んでもらうまちとしてすごく成功している自治体は幾つ

かあったはずなんです。そういったところを参考にして、どんな施策が若者たちに響いて、どうせ住むんなら所沢にしようよという選択肢の1つになってもらえるまちであってほしいなというのを、漠然とした意見かもしれないですけどもありますし、それによって、子どもたちにとって一番いいものは、多分同世代のお友達が自分の住んでいるまちの近くにいっぱいいるということだと思っんです。ぽつんと、それでまちのおじいちゃん、おばあちゃんがみんなかわいがって、自分の孫だみたいな感じの暮らし方もあるのかもしれないですけども、同じ6歳児なら6歳児というもののゾーンが、一定数、まちの中であって、次の世代も、その次の世代も同じような形で、規模的にですよ、そういった年代の子どもたちがそろっているというまちであると、将来に向けての計画も立てやすいですし、この子どもたちが何年後にこういう世代になるよねと。

転出されてしまっっては、それは元も子もないので、そういった施策の意識で、子どもたちがずっとここに暮らし続けてもらえるというまちであってほしいなと。それに対しては、具体的にどんなことをすれば、このまちを選び続けてもらえるのかというものは、五、六十歳の意見ではなくて、若者たちが自分の暮らすまちに対してどんなことを期待しているのかなというものを、少なくとも聞く場というものは設けないと、何度も言いますけれども、五、六十歳の人たちは、もうその人たちが現役になったときというものはということになっていますので、それではちょっと自分たちの、五、六十歳の世代の独りよがりなんじゃないかというふうに言われて

も仕方がないかなというふうに、厳しめに私は感じています。

そういった意味で、子どもを中心にするまちなのであれば、子どもの意見をちゃんと聞いて、この人たちが住み続けてもらえるまちになるためには、どんな施策が必要なのかということきちんと計画に持ち込んで、落とし込んで、実行していくということが必要なんじゃないかなというのを強く感じています。

相沢参考人

計画に携わっていき、孫が住むに当たりということでは、総合計画の10年間ではなく、さらにその先、もう30年スパンでのお話と受け取りました。どんなまちになってほしいか、30年後に自分の孫が住むとしたら。

県内の別の市に弟が住んでいるんですけども、家を出たい、できればもうちょっと都心に住みたいと言っております。それは何でかなというお話を聞いたら、生活圏、行動圏が広がって、友達と会うのに不便だから。片道2時間かけて会いに行くのが大変だからというようなお話も1つありました。

山藤参考人がおっしゃいましたけれども、同年代、特にこのまちに住み続けるかという決断をする大体二、三十代、場合によっては40代ぐらいの人が判断をするのは、程よく交友関係を残しつつ、でもここに残る理由を残しつつというところで選ばれ続け、転出させないためのつなぎ止めにはなっていくんですけども、そういったところでいうと、もうちょっと所沢市だけじゃなくて、これはこの場で申し上げていいことか分からない

ですけれども、所沢市だけじゃなくて、埼玉県でいうと、横方向のつながりがすごくアクセスが悪いとか、一度都心に出なきゃいけないとか、多分そういうところも含めて、現役世代の方がどういう動き方をしているのかな、こういうふうになったらいいなというのももうちょっと拾い上げる場があると、あるいはもうちょっと所沢市に残ってもいいかなと思えるのかなと思います。

私が所沢市に住み続ける、私は出生届も所沢市に出しております、自分の子どもの出生届も所沢市に出しているんですけれども、所沢市に残った理由は、あくまでも配偶者が所沢市民だったからです。そこに残り続けるために、不便がないからまあいいかぐらいの気持ちだったので、今残るために、私たちは特に不便を感じてはいないです。よそにすごく魅力があるわけではないです。ただ、やっぱり出ていきたいなと思っている人たちは、交友関係を大きく言い訳というか、動機づけにしているところが多いかなとは思っています。

あと、私がこの計画に携わって一番最初に思ったのは、この本をもっと早く読みたかった。第6次まで、私はこの本を知らなかったというのがすごく悔やまれます。もっと言えば、この審議会も、来年委員に選ばれるから時々傍聴しに来てね、来年こんなことをするかもしれないから、ちょっとここにあるかもしれないから、暇だったら見に来てねぐらいの案内があったりすると、私たちってこれからこういうことをするんだなという、腹をくくるといふか、気合を入れるところが発生できたのかなと。

正直、「絆」ミーティングの4回と審議会の5回は、あまりにも少な過ぎるなど。これらを思った上で、受け取った知識とか考え方とかを踏まえて、次回に生かしたい、次回に生かしてくれる人にバトンをつなぎたいというのを思うので、この計画書がもうちょっと身近にあって、もうちょっと読めたらよかったな、公民館にあったら、図書館にあったらということを感じています。

斉藤委員

子どもを中心にするまちづくりということで、どこの市も同じようなことを言っているのかもしれないが、所沢市としての差別化というのか、ほかのまちと、こういうことを出しているから子どもを育てやすいよという、そういう特色とか、そういったことの話がどのように話合いの中で出たかということ、ちょっと記憶に残っているだけでもお伺いできればと思う。

山藤参考人

子育て世代がなぜ所沢に残り続けるのか、できれば所沢に住み続けたいと判断をしているポイントというのはどこなのかというものを、議論をした記憶はあるんですけども、そんなに他市町村との、胸を張って差別化が図れるポイントはここだよねという意見にまとまったという記憶はないです。当たり障りもない、ある程度の規模にまとまった30万人ちょっとの市ですよということで、学校の数であったり、公共施設の数であったりというものも、可もなく不可もなくというところで、特色ある市である

という認識は、多分市民もほとんど感じてはいないと思います。かといって、決定的に駄目だと言われるところもないと。

それが、全国を見たときに、所沢市が住む場所として選ばれるためには何が必要なのかというところを、今後も皆さんで考え続けて、施策によっては、トライ・アンド・エラーという形になるかとは思いますが、何もしていないでいると衰退する一方なので、何か考えて、決めたら実行してチェックをするということを、勇気を持ってやっていただきたいなというのを、私は個人的に「絆」ミーティングと総合計画審議会に参加して感じました。

相沢参考人

子どもを中心としたまちづくりにするための今のメリット、私が教えていただいたのは、県内の児童館の数がほぼトップになると。所沢市の児童館の数がすごく多い、それは学童を併設していることによるもので、昼間は児童館、それ以外の時間及び土日は児童館として使えて、お母さんたち、子どもの寄り合いができるよということを教えていただいたのは「絆」ミーティングでした。

総合計画審議会において、そんなに子どもがいることについての、子どもを育てるために、ここに力を入れているよと、ほかの市と比べてこういうところがいいよという比較はあまりなかったかと思受けられます。

ただ、「絆」ミーティングにおいては、航空公園が近い、木々を残して、子どもが遊べる広い公園がすごく多いとか、あと市民体育館の前に新しい

病院がたしかできましたかね、ああいう大きい病院ができる、これから私立の中学校ができる、そういったところで、メリットとして、子どもたちを今度市内に囲い込むための施策は幾つかあるよというのは、「絆」ミーティングのほうで教えていただきました。

1個前の項目になってしまうんですが、孫が住むに当たり、どんなまちになってほしいかのお話、1個失念していたんですけれども、お店の子ども服の取扱いがどんどん減っていきます。周りの市に、入間市に行ってください、東京都東大和市に行ってください、あちこちの市に行ってくださいという、ほかの市に回ってくださいという案内がむしろ出ていたので、そういう広告を見ってしまうと、所沢市からは出ていってしまうなというのはすごく思います。

西武デパートとして所沢で花を咲かせたお店ですが、以前は6階が全て子ども服でした。ちょっとしたお友達へのプレゼント、出産のお祝いにも行ったんですが、なくなっちゃいました。パルコもなくなっちゃって、池袋まで出ていたんですけれども、そちらもなくなっちゃって、無印良品も子ども服の取扱いがなくなっちゃって、そういうのを見ていると、所沢市は子どもが減っちゃうのかなというのは、現場としては感じています。お話違って、失礼いたしました。

斉藤委員

今、不登校の子どもたちがすごく増えているのだが、そういった不登校の子どもたちの受入先の施設とか、公的のほうは難しいかもしれないけれ

ども、民間でそういった施設とか、何かその辺の話が少しでも出たということはあるか。

相沢参考人

当事者として耳が痛い話です。不登校の問題は、うちの上の子も学校に通うか通わないかの境目があって気に病んでいました。そういったものに対して、フリースクールの話が出たのも「絆」ミーティングで、さらに、お名前は失念してしまったんですが、第2章のチームとしてお話をしているときに、市役所のプロジェクトチームの方からお話を個人的に教えていただくことはありましたが、恐らく審議会の項目についても、不登校という項目は恐らく取扱いがそう大きくはなかったかなとは思っています。

不登校に関しての取組については、不登校はイエスカノーではないなというのが現場からは思います。そうすると、不登校についての子どもを受け入れる施設が欲しいという話ではなくて、不登校で、朝はちょっと気分が乗らなかったから学校へ行けなかったけれども、10時には学校に行けるといったときに、10時からの始業を受け入れてくれる大人側、保護者側に対しても働きかけが必要かなと思います。

山藤参考人

私も印象としては、不登校ということが大きくトピックとして取り上げられたという印象、記憶はあまりないです。

ただ、やっぱり今、相沢参考人からもお話ありましたが、世の中の価値観が大きく今どんどん変わって行って、自分が子どもだった頃は、

多分不登校という言葉でもなかったと思います。私の記憶では、登校拒否児というふうに言われていました。もう完全に駄目なことだという言葉じゃないですか。それがいまや、やっぱり一人一人の人権意識であったり、何であったり、不登校を今はもうマルかバツかという話ではなくて、不登校には不登校なりの納得できる理由と背景があって、じゃ、その子を学校に行くのを拒否している子どもだという社会の価値観ではなくて、違う価値観で所沢市としてはこう考えていますよというものを、きちっと発していくべきかなというのを、今感じてはいます。

矢作委員

山藤参考人にお聞きしたいのだが、所沢以外のところに住んでいらしたときに持っていた所沢の印象と、住んでみての印象、それから今回計画に関わって感じられていることがあれば伺いたい。

相沢参考人には、お話されていたかもしれないが、計画に関わって、何か変わった印象があればお聞かせいただきたい。

山藤参考人

私は、生まれが埼玉県草加市です。規模的に所沢と似たり寄ったりかなというところで、途中、岩手県に7年ほど一人暮らしをした時期もあったので、盛岡市との比較もできるんですけども、結婚を機に所沢に居を構えて、夫婦2人で暮らして一番強く感じたのは、所沢って、先ほども児童館の数とありましたけれども、公園が多いんです。草加市に比べると、多分5倍以上公園の数が多いです。大きな航空公園に限らず、まちのあちこ

ちに、住宅地のあちこちに小さな何々公園、何々公園と、むしろこの地域にこんなに公園要るといぐらい、公園がいっぱいあって、子どもたちが小さい頃に、今日はどこへ連れて行こうとかというのにそんなに苦労しないというのはすごくよかったですと思います。あっちに行きたい、こっちに行きたい、この間はあそこへ行ったから、今度はこっちへ行こうよというものに対しては、市の状況としては公園がたくさんあったので、すごくよかったですと思います。

引っ越して来る前に、所沢市に対してどんな印象だったかというものに関して、これはもう正直言いまして、ほとんど印象なんかなかったです。湖の近くだよねとか、たしかライオンズ球場は所沢じゃなかったっけぐらいの印象です。

もう亡くなりましたけれども、私の父親から所沢に引っ越すことにしたと言ったときに、陸の孤島だぞというふうに言われたのをすごく覚えています。でも、住んでみて、決してそんなことはないし、西武鉄道があればきめ細かく走っていて、所沢でクロスして、池袋と新宿に出るのにもそんなに苦労はないなというところで、都心へのアクセスも良好ですし、緑も多くて、そこそこの人口で、住めば都という言葉もありますけれども、住んでみてすごくいいまちだなというふうに私自身は思っています。いい意味で、期待を裏切ってくれたまちだなというふうには認識はしていません。

所沢市に出生届は出しましたが、出たこともあります。所沢市から出て、埼玉県内と、ちょっと東京に働きには出ておりましたが、所沢市を見たときの印象は、何でもあるな、大きいお店がいっぱいあるな、たしか航空公園もあったよねという、ちょっと遠くから中を見たときに、あれもあるよね、これもあるよねというのはぼこぼこ浮かんで来て、便利だなというのと思いました。

住んでみて思ったのは、歩いて行けるところに公園しかないなでした。それは、多分子どもに対して、徒歩圏の幼児とか、小さい児童とかが子ども同士で集まれる小さいスペースはあって、大きくなっていったら、網羅されている西武鉄道であちらこちらに出かけて、いわゆるベッドタウンとしてのつくり方はすごく成功しているのかなというの思います。所沢市外で働いて、所沢市に帰ってきて、土日は所沢市で過ごして、子どもたちは公園でちょっと遊んでというの、住んでみてうまくいくなというの、思いましたが、買物に行くのに、ちょっと自転車や車を出したりというの、ほかの市とは違うかなと。

それは、たまたま住んだところが、ちょっと利便性のいいところに住んでいたというのはもちろんあると思います。ただ、うちの周りが今はちょっと開発中というか、ちょうどおじいさん世代が今少しずつ家を畳んでいってしまって、その下の世代が土地を売って、切り売りしたお家が全部宅地になっていく。住宅になっていって、スーパーではなくて、今はお家を多く造っているなというのを見受けられるので、これもまた、きっと需要

を受けて、順番待ちでスーパーとか、お店が、商業施設が小さいものがつくられていくんだなとは思いますが、大きいコンテンツはあるけれども、日常としての小さいコンテンツはあまり近くにはないかなといった印象は受けました。

**【参考人への質疑終結】**

休 憩（午前10時21分）

（参考人退室）

再 開（午前10時29分）

（経営企画部）

**【質 疑】**

大石委員

参考人への質疑に対して、この評価指標とか事業目標につきましては、審議会の皆さんからの御意見で、今回は書き込みを、記入をしないようになりましてというような今まで御説明があったが、参考人への質疑の中では、執行部のほうで決められてきたような印象を私は受けたが、先ほどの参考人の御答弁を踏まえて、どのように事業目標がなくなってきたことについてお考えか、整理をしていただきたいと思う。

松本経営企画

まず初めに、相沢参考人と山藤参考人には、「絆」ミーティング、それ

から総合計画審議会の市民委員として参加していただきまして、大変率直な意見ですとか、忌憚ない御意見をいただいて、大変感謝をしております、また今日もお忙しい中にもかかわらず、参考人ということで足を運んでいただいて、またここでも忌憚なき意見をいただいて、計画に携わる者として本当にありがたいことだと思っています。改めて、お礼を述べたいと思います。

それを踏まえまして申し上げますが、「絆」ミーティングですとか、総合計画審議会、一番最初の開催が令和5年5月であったり、7月であったりしますので、1年5か月ですとか、それぐらい時間がたっていますので、両参考人におかれましては、記憶の限りではといったような答弁もあったかと思うのですが、御記憶の中で答弁していただいたというふうに思っておりますが、決して何かそれが事実と違っているとか、訂正させていただきますということではなくて、事実ベースで計画の担当としてお答えいたしますと、評価指標のところにつきましては、第2回の審議会が令和5年8月23日に開催させていただいたのですけれども、このときは第6次所沢市総合計画前期基本計画の振り返りということで審議をいただきました。

参考人からもお話があったように、このときは6次の前期の評価指標ですとか、事業目標を振り返ったときに、やはりコロナの影響が大きくて、なかなか数字が及んでいないというものが少なからず見受けられて、そのことに対して、普通だったら、世の中が大きく変わったときに、じゃ、目

標値をもう一回変えて、それを目指して事業を進めていくというような考えはなかったのかといったような議論もある中で、一度議決を取っていると、変えられなくはないけれども、なかなかすぐには変えられないものであったり、あるいはコロナが大変な市民生活にも影響を及ぼしたのもありましたので、まずはそこに手を差し伸べるということで手いっぱい、なかなかそこまで及ばなかったのも、令和6年度までの目標値は変えずに、実績値とはかなり乖離がある中でも、変えずにそれを進めてきたというような説明を申し上げる中で、もう少し柔軟に対応するといったようなことも考えるべきではないのかですとか、あるいはやはり評価指標が40で、事業目標が155ありましたので、丁寧ということではあるのだけれども、そういった柔軟性というところを考えたときに、再考の余地があるのではないかといったような議論を、その令和5年8月23日に開催した総合計画審議会では議論をしたと、議論がなされたということでございます。

それを踏まえて、後期基本計画ではどういった数字の設定の仕方があるべきかということ考えたときに、今回のような整理をして、後期基本計画の案としたという次第でございます。

大石委員

そういうことでいいですよ。

それで、もう一つは、市長の選挙公約につきましては、私は、中核市以外は議論していないというふうに、審議会と「絆」ミーティングでしてい

ないのではないかなというのは、参考人のお話を聞いていて思ったけれども、それはさすがに、市長の選挙公約に合わせてこの任期を変えたのだから、そのところは御議論をもっとすべきだったのではないかと思うが、いかがお考えか。

松本経営企画  
課主幹

こちら、同じように第4回の総合計画審議会を令和6年2月26日に開催しておりますが、このときに、全員協議会でも御説明をさしあげました計画の素案の1つ前のバージョンについて、審議会の中でお示しをして御議論いただきました。

このときに、最も大きな論点としては、市長公約を踏まえた大きな方向性というところで、このときに中核市移行に向けた検討を進めるということとを記載することについてと、あともう一つ、子どもを中心としたまちづくり、これを軸に据えるということ、この2点について、令和6年2月26日に開催した第4回の総合計画審議会、事務局から説明をして、御議論いただいたということでございます。

大石委員

審議会の中では、そのような形で進んだというのは分かったが、だったら1回だけ、「絆」ミーティングは市長が変わった後に行われたとあったので、それぞれの「絆」ミーティングのグループで、それぞれの市長公約についてきちんと議論をすべきだったのではないか。いかがお考えか。

松本経営企画

申し訳ございません。答弁漏れでした。

課主幹

「絆」ミーティングにつきましては、令和5年度中に4回開催をしております。1回目が5月14日、2回目が8月27日、3回目が10月15日、ここまでの藤本前市長が市長の任にあったときに開催したものでして、市長の交代があって、最後、第4回目の「絆」ミーティングを3月24日に開催いたしました。

この3月24日の「絆」ミーティングのときには、先ほど申し上げました全員協議会でお示しをしました素案の前のバージョンから、素案に向けて精度を高めていっているというような最中でした。このとき、「絆」ミーティングでは、確かに各班ごとに、それぞれ一つ一つ市長公約についてどういう扱いになっているかということは議論は行いませんでしたが、そのときのバージョン、素案になるちょっと前のバージョンということになりますけれども、これを「絆」ミーティングの出席者の方に、全員にお配りをして、御覧いただいたということと、あとは市長が変わったことによって、中核市移行に向けた検討を進めていくという記載もあることから、そのことについて、市長が変わったことによって、その準備を進めていくことについて記載をするといったような説明は行いました。

石本委員

私も大石委員と関連するところで聞くが、結局、藤本前市長が市長選の公約では保健所をつくると、学校の給食費の無償化も、あのときはオーガニックも言っていたけれども、無償化も掲げていた。だから、保健所をつ

くるとなれば、一般的には大体中核市になるということでね、そういうのが全国的な、普通の道筋なわけだから、そうすると、私、これを3回読んだのだけれども、藤本前市長のときと内容は実態的に変わっていないのではないかなという。

百歩譲って、さっき中核市のところが加わったと話していたけれども、この間の質疑などでも、選挙管理委員会の期日前投票の増設のところなど、前期と文言が全く変わっていないのに、藤本市長のときにはそれを基づいてつくらないという、増設しないという論拠にしていたところが、その同じ文言を論拠に、今度は増設できるんだということでいくと、実態的にいうと、先ほど参考人の方も、後期だから前期のことを踏まえてだからはばかれるみたいな御意見もあったではないか。そうすると、どの部分が、中核市とさっき言った部分以外は、もう全部藤本前市長時代の政策という認識でいいのか。

もうほとんど原板ができていて、だって市長もこの文言に何も言わなかったということとか聞くと、そういうふうを感じるのだが、何が小野塚市長になってどの部分が変わったかというのは、改めて分からないのだから、ちょっとそこら辺はどうなっているのか。中核市とそれ以外のところで、どこがどう変わったのか。

松本経営企画  
課主幹

小野塚市長からも直接答弁をしたかと思いますが、この計画の策定に当たって、途中で市長の交代ということがございましたので、改めて新しく

就任をした市長に、後期基本計画の策定に向けての説明をするとともに、  
どういった考え方であるのかということを確認をしたときに、そこから事務方として指示を受けましたのは、変えるべきところは変える、継承するべきところは継承する。それと、自分が考えるところの大きな方向性、市政の大きな方向性にしては、適切な形で盛り込んでほしいといったようなことがありましたので、個別のものについては、公約につきましては、その全てを計画に書き込むものではない。市長の計画ではなくて、市の計画ですので、一つ一つ計画に書き込むべきものかどうかというのは、それは内容によりますし、またその進め方にもよるといふところがありますので、今回の後期基本計画の案を見たときに、書かれているものと、確かに書かれていなくて、書かれていない中でも、これから各年度ごとの実施計画の中で実施していくものもあろうかと思いますが、書かれているものと書かれていないものがまずある、公約が全て書かれているということではないということと、あとは大きな方向性としてお示しをしたというところが、子どもを中心にしたまちづくりということと、あと中核市移行に向けた準備を進めていくということの、この2点でございますので、後期基本計画の中で、市長の考えがどういった形で盛り込まれているのかということとで申し上げますと、今のとおりということでございます。

石本委員

だから、確認なのだが、中核市に移行の部分と子どもを中心にしたまちづくりのところ以外は、藤本前市長時代のときに大体文案ができていたも

のがほとんどという認識でいいということか。

松本経営企画  
課主幹

説明の仕方として、藤本前市長がつくったときの計画の内容がそのままと言われると、なかなかちょっとお答えしにくい部分もあるのですが、もともと第6次所沢市総合計画は、基本構想として10年間を定めておりまして、この基本構想、将来都市像、この10年間の目標をどのような形で進めていくかというところで、総合計画、3層構造の中の2番目のところとして基本計画があって、それが前期で6年、後期で4年というふうになっておりますので、市長が変わったからといって、その計画の部分が、後期の4年間の部分ががらっと変わるのかというと、必ずしもそうではない。当然、将来都市像が変わらないということであれば、その将来都市像を実現に向けて、何をどう定めていくかということになりますので、前期基本計画の6年間の内容を踏まえて、継承すべきところは継承し、また変えるべきところは変えるといった内容で検討して、今回、案として内容を整えたということでございます。

粕谷委員

関連して聞くが、10年の総合計画は本当に大きな柱になるので、それはなかなか変えづらいというのはあるが、前期計画が6年で、後期が4年という形で、今言われたように、市長の任期に合わせた形で後期は4年にしたなというのはあるのだが、具体的に市長の公約は幾つもあったかと思う。確かに、言われるように市長公約が必ずしも市の政策でもないわけ

で、それは分かる。ただ、やっていく中で、後期基本計画の中に具体的には入っていないけれども、ある意味、抽象的なものになっているようなものもあるかなと思うのだが、要するに読み取れるというか、そういうものはまた実施計画の中でも出てくるという可能性はあるわけなのか。

松本経営企画  
課主幹

それは、個別の事業ではないけれども、中くらいの市政の方向性が表現されるものが実施計画に記載されることがあるのかという御質疑ということでしょうか。

実施計画書は、基本計画を踏まえまして、各年度ごとにどういった事業をどういった内容で、どういった歳出予算でやるかというのを、新年度予算が御議決をいただいた後に、具体的にこうだということ記載をして、掲載していくものですので、基本的には各個別の事業を記載していくことにはなるのですけれども、個別のその事業について、どういったことを目的として、どういった進め方をするのかというふうに説明する部分もありますので、そういったところで考え方を示していくことはあるかと思えます。

石本委員

ちょっと確認だが、総合計画は市長の計画ではなくて、市の計画だからという話なのだが、少なくとも第5次総合計画のときは、藤本前市長は基本計画の改正案を出したわけである。そうすると、当然市長の政策の色合いは当然濃くなると思う。

それに、一般市民の方は、やっぱり昨年10月の1年前の選挙は、あの票差を見れば、劇的に所沢市内では政権交代が起きたというふうな認識を持っている方も一定数いると思う。そのときに、総合計画は市長の公約ではなくて、市の計画だからといっても、ある程度やっぱり書き込まなければ、今の市長に投票した市民とか、そういう人たちに対してちょっと丁寧さを私は欠いていると思う。

先ほど参考人の方が、こういう総合計画が学校の図書館とかにあればいいなというふうな御意見があった。だけど、そういうのを例えば図書館とかに配架したときに、いや、出ていないなというふうに思われちゃうと思うのだが、そういうところの配慮とかというのは、改めて今回参考人の質疑とかを聞いてみて、どのようにお感じになっているか。これは、部長に伺いたいと思う。

市川経営企画  
部長

市長が交代して、その公約が後期の策定にどのように反映してくるかというお話かと思います。

先ほど、担当からも御答弁はしておりますけれども、基本的に今回策定をしております基本計画が後期であって、当然ですけれども、前期から引き続くもの、あるいは10年間の基本構想の下で設けられた後期だという位置づけがある前提の中で、これは議案の説明でもお話しさせていただいておりますけれども、市長から具体的に指示を受けたところとして、中核市への移行ということと子どもを中心にする、ここにつきましては、大き

く変わったところということで私どもは認識をしているところであります。

先ほど申し上げた全体の構想の中で大きくは変えないんだというところと矛盾に聞かれるかもしれませんが、決して中核市の制度自体を、これまで前期におきましても否定をしているものではございません。表現は中核市という言葉は使わず、大都市制度についての検討を行うという非常に控えめな表現ではありましたが、存在はしておりまして、それを具体化をして、中核市というものを前面に出してきている、これは大きな転換と捉えております。

また、リーディングプロジェクトの中で、これまで横並びだったところを、子どもを中心にというものを軸にして、そこを全体が取り囲むような考え方を取ること、これも大きな転換というふうに認識をしております。

福原委員

先ほど、参考人の方からのお話を聞いて、いろいろと改めて視点が変わって、私も改めて感じる部分があったのだが、そのうちの1つが、やはり各章ごとには目標とすべき指標があると。だけれども、この後期基本計画全体として、所沢市として、何を目的としていくのか、どうしていきたいのかというのがぼやっとしているというか、子どもを中心にするまちづくりということが今回リーディングプロジェクトとして出ているということはもちろんあるのだが、じゃ、それをもっともう一步踏み込んだ、基本計画ならではの目的というか、目標というか、その辺というのはどこを見

ればいいと考えるか。具体的なページが分かれば、お示しいただければと思う。

松本経営企画  
課主幹

現在において、第6次所沢市総合計画におきましては、構えとしては3層構造と先ほども申し上げましたが、基本構想で将来都市像を定めて、それを実現するためのまちづくりの目標というのを、この基本構想の中で7つ定めておりまして、この7つを基本計画の構成として、第1章から第7章までという構成にしておりまして、その中で、また施策ごとに内容で整理をするということで、各節というところに落とし込みをして、その中でまた個別に課題にひもづいたものを基本方針ということで整理をしたという形になっておりますので、個別の内容、どういった内容のものであったにせよ、必ず今申し上げた将来都市像を実現するためのまちづくりの目標がどこで、その中で施策ごとに整理していくとどの節に当たり、またその節の中でどの課題を解消するための基本方針なのかというところに必ずひもづくというような構成になっておりますので、後期基本計画においてもそれは変わらず、そういった考え方の整理になるかなと認識しております。

福原委員

その辺は私も少しは認識できているかなと思うが、要は市民目線からすると分かりづらいというか、その辺の構成とか、あとはその表現、こういうふうな縦分けとか、文章構成とか、あと行政用語とかもろもろ含めての、

市役所、もしくは行政が中心でつくったという前提で、それを市民の方に見て理解してくださいねという前提で、これはつくられているわけなのだが、さっきの話を聞いていると、それが理解できる方はもちろんいらっしゃるかもしれないが、例えばそれを子ども目線にした場合に、どこまでそれが理解できるかなど。

総合計画ということは何となく分かると。これが市の目指すべきまちづくりの、まちの姿なんだという、その大きな部分での視点というのは理解できるけれども、それを、じゃ、もうちょっと表現とか、もしくは様々な形で市民の方になじみやすい内容、構成というか、文章の中身的な部分、その辺というのはどういう議論があったのか。

ずっと今までも、第4次、第5次とか、あと総合計画とか基本構想とか、そういう部分でずっとやってきた中で、繰り返して恐縮なのだが、行政目線でのつくり込みになっている。それが、じゃ、いろんな市民の方からの御意見を聞きながら、審議会での御意見とかも多分あったと思うが、もうちょっと分かりやすくとか、そういう表現が出てくる場面が多いと思う。そのときに、やっぱりもっと市民の方に触れる機会をつくるための、もっと親しみやすい、もしくは表現が分かりやすいというか、その辺の感覚がどこまであったのかなどというのがちょっと気になったわけである。

そのところの議論というのは、現場でどういう形で議論されているのか、その議論があれば、お示しいただきたい。

松本経営企画  
課主幹

2点ありまして、1点目は、分かりやすい計画というところで申し上げますと、今、議案として提出している内容を御議決いただけましたら、その内容を踏まえて、冊子の作成というところを進めていきますが、その冊子の作成に当たりましては、今お話にあったような、市民の方が読み物として読んだときに、幾らかでも読みやすいような形に、レイアウト仕様も含めてということになりますが、工夫をしてまいりたいというふうに考えております。

それから、2点目につきましては、先ほど相沢参考人からも、もっとこの計画を早く読みたかった、読む機会があったらよかったというようなお話がありましたけれども、計画に携わった者としましては、大変ありがたい言葉だなというふうに思っております、私たち行政職員からすると、この総合計画というのは市の事業を進めるに当たって、憲法みたいな存在、最上位計画ですので、これがないと何も仕事が裏づけを持った形ではできないというものですので、当たり前な大事なもののなのですけれども、確かに市民目線で見るときに分かりやすいかですとか、あるいは市民の方が興味を持って手に取ってくださるか、例えば図書館ですとか、まちづくりセンターにこれが配架されていたとして、市民の方がこれを手に取ってくださるかどうかですとか、読んだときに、細かいところまでは分からないけれども、おおよそこういうことなんだなというふうに分かっていたいただけるような内容であったり、整理の仕方であったりというのは、これは継続的に考えていかないといけないというふうにも思っておりますので、今

回、第6次後期基本計画ということで議案として提出しておりますが、計画はまた今後、第7次ですとか、第8次ですとか、ずっと続いていくことになりますので、これについてはまた次の担当ですとか、執行部としてもきちんと継続的な改善に努めてまいりたいと考えているところでございます。

休 憩（午前10時55分）

（説明員交代）

再 開（午前10時57分）

（教育委員会）

【補足説明】 な し

【質 疑】

矢作委員

28ページのところで、1-5-4、公民館機能の充実ということで、条例改正もあったのだが、教育委員会としての関わりが、何か変わっていく部分というのがあるのか。

奥井社会教育  
課長

来年以降、教育委員会としては、管理する立場ではなくなりますが、連携をしていきますので、例えば引き続きということになりますけれども、社会教育主事の研修の御案内とか、職員に対する社会教育という観点からの研修とか、日常的な会議での共有とか、そういったことは継続して進め

ていきます。

矢作委員

管理はしないということだが、公民館運営審議会とか、社会教育委員会議とか、そういう中でも、公民館に関しては引き続き取組をしていくという理解でよろしいか。

奥井社会教育  
課長

おっしゃるとおりでございます。

大石委員

保健所が、計画では生涯学習推進センターのグラウンドということで候補に上がったが、生涯学習推進センターに対する影響みたいなものはあるのか。

奥井社会教育  
課長

グラウンドを使っている団体がございますので、その辺が使えなくなるという影響がございます。

大石委員

どのように調整しているかぐらい、ちょっと説明してもらえばありがたい。

奥井社会教育  
課長

8月頃でしたか、既にグラウンドを使っている方々への説明会ということ、経営企画部と共に行っておりまして、そこでどういった学校開放と

か、代わりになるような場所がどういったところにあるかとか、手続とかという一通りの案内は、取りあえずは行っているところでございます。

石本委員

1-5-3のPTA等のところをちょっと伺いたいのだが、市長の公約でPTAの負担軽減をすごく図るということ、市長公約を掲げているが、最近、よく新聞とかでもPTAを脱退している報道とかもあるが、そこまではいかないと思うが、まず市長のPTAの負担軽減の公約、私は任意団体だから実効性はないのではないかなと前から疑問に思っているのだが、今どういう取組をまずされているのか。

奥井社会教育  
課長

現在のところは、家庭教育学級というのが今はほとんどの学校でPTA活動の一環として行われているのですけれども、家庭教育学級を、今年度から中身を、ボリュームを少し下げまして、取り組みやすくしているということがございます。

石本委員

だから、ボリュームを下げるというのは、例えば具体的に、保護者の方からすると、市長公約で保護者の負担を軽減すると掲げてあるわけだから、保護者から見てどういうふうなのがどれぐらい軽減、例えば、何か目安になるものとかはあるのか。

奥井社会教育

具体的に1つ言いますと、昨年度までは各学校の家庭教育学級の運営委

課長

員会という、保護者の集まりの中で、年間で18時間を目安に講座等を企画して運営していただくという内容でしたが、今年度からは何時間とかということではなくて、年間で4回、講座等を企画していただくという内容に変えております。

石本委員

流れとして、市長がPTAの負担軽減と掲げているところで、今までどおりの学校や、家庭と地域の連携というのは、私はなかなか図っていく、維持していくというのは、普通に考えると難しいのかなと思うのだが、この辺というのは、今回、課長の部署とかを含めてどういうふうに、数量的には表すことは難しいけれども、数字でいえば減るとか、例えばどういうふうなイメージなのか。それとも、現状維持ができるという認識でいるのか、その辺をちょっと伺っておきたい。

奥井社会教育

例えば、PTAの加入率とか見ましても、少し下がるような傾向が見え

課長

だしてきているということもございまして、ここ数年進めておりますのは、やはり日頃からこういった形で、PTA活動というのは何をやっているのかとか、何に幾ら使っているとかということをしかりと保護者の皆さんに伝えて見える化していくと。そして、PTA活動全体の存在意義といますか、そこら辺を納得というか、理解をしていただくということを地道に今進めておりますので、何とか維持していきたいとは考えております。

大石委員

青少年の子どもの居場所づくりの御議論は、青少年健全育成とあったのだが、これはこども未来部所管で、教育委員会ではそういう話はしなかったのか。

奥井社会教育  
課長

子どもの居場所づくりという観点では、最近の動きとしまして、生涯学習推進センターで、トコろん自習室を行っていたりとか、同じぐらいのタイミングで、各公民館でもできる範囲のところですけども、自習スペースというのを夏場を中心に行っておりまして、そこら辺の動きといたしますか、情報を共有しながら進めているところでございます。

島田委員

45ページ、(2)課題のところの上から2つ目、課題を抱える児童生徒の早期発見、云々といういろいろあるわけだが、所沢市においては、残念ながら2件の自殺の件と、あと殺人事件というような悲しい事件があったが、やはり、それがこの辺に内包されているのかどうかというところと、あともう少し、その辺の対応というか、その辺はどのような御議論があったのかについてお伺いしたい。

吉川学校教育  
担当参事

課題を抱える児童生徒の早期発見・早期対応を学校で適切に行うために、スクールカウンセラー等というふうに書かれておりますけれども、こちらにつきましては、各学校で、市のスクールカウンセラーはもちろん

のこと、心のふれあい相談員であるとか、もちろん学級担任もそうですけれども、組織としていろいろと会議等も含めて、話し合いをしながら、気になる子、気になる子だけではないですけれども、全員、子どもたち、児童生徒をよく見て、その児童生徒個々に応じて各学校で対応をしているところでございます。

島田委員

個別に抽出して、そうした課題があったということではなかったと思うのだが。

次の下から2番目の老朽化が進む小中学校の長寿命化のところ、藤本前市長のときというのは、小・中学校の統廃合というのは、私の目の黒いうちはやらないと言っていたが、それについては、これは何か統廃合についてとかという議論は、この中に含まれているというような認識、もしくはそういう議論があったかどうかについて、いかがか。

池田教育総務  
部次長

今後、老朽化が進む小中学校の長寿命化というところに絡みまして、例えば今御指摘のありました学校の複合化であったり、あとは、場合によっては統廃合というようなキーワードについても、今後検討していく余地はあるのではないかというふうに考えております。

大石委員

45ページの(1)これまでの主な取組のところに、老朽化する小中学校について、学校施設長寿命化改修事業を進めるとともに、学校トイレの

洋式化やバリアフリー化、既存照明等のLED化等、学校環境の改善を進めましたと言うが、無限の可能性があった木質化については、やっているにもかかわらず、どうしてここに書かなかったのかというのが1つ目の質問。

2つ目が、46ページの2-5-5の学校環境整備の推進の中において、前期の場合は木質化が入っていたが、今回は木質化がなくなった。木質化はもうやらないという考え方でよろしいのかというのが2つ目の質問。

3つ目は、9月定例会の一般質問を聞いていても、体育館への空調は相当なスピードで進んでいくんだな、取り組んでいくんだなというのは答弁を聞いていると分かったが、体育館への空調設備の整備と書いてあるが、体育館への空調というものについて、この4年間でどのように進むのかというのをお示しいただきたい。

市村教育施設  
課長

1点目の木質化でございますが、現在、事業化については考えておりませんで、今後、先ほども次長のほうから御答弁申し上げました長寿命化や改築などに伴いまして、財政状況を勘案しまして、内部改修のほうで検討してまいりたいと考えているところでございます。

それから、体育館のエアコンでございますが、現在、庁内で検討を進めているところではございますが、なるべく速やかに進めたいと考えているところでございます。

大石委員

木質化については、今、南陵中学校で行っているわけだが、それに対する効果とか、そういったものはもう再検証していかないという考え方なのかというのが1つ目で、もう一つは、この4年間で体育館への空調設備を進めるという、順次予算も確保してという形だが、じゃ、どのくらい体育館への総額がかかるのかというのは、概算でも分かればお示しいただきたい。

市村教育施設  
課長

まず、木質化の効果検証でございますが、現在のところは考えておりませんが、今後、何ができるのかを踏まえて、検討してまいりたいと思っております。

それから、体育館のエアコンの予算額といいますか、金額でございますが、他市の状況を勘案しますと、大体少なくとも30億円以上はかかるのかなと見込んでおります。

大石委員

それは、30億円、おおよそだが、これから物価高もあるからもっと上がるかもしれないが、防音とか断熱性能を高めていくとかかるかもしれないが、それは小・中学校全てという考え方でよろしいのか。

市村教育施設  
課長

小・中学校全ての総額で、断熱はちょっと今のところ幾らかかるかというのは、まだその金額は見込んでおりません。

大石委員

前のところとも関連しているのだが、2-5-3、地域が信頼する学校づくりの推進で、地域とともに歩む学校を構築するため、各学校の地域の特性を踏まえ、創意工夫を活かした特色ある学校づくりを推進しますとか、あと、前のところにも、家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成とか、地域における子育て支援の充実とかあるが、コミュニティスクールというのを進められているが、コミュニティスクールという文言を使わずに、その方が分かりやすかったのではないかなと思うが、使わなかった理由は何か。どのように御検討されたのか。

吉川学校教育  
担当参事

コミュニティスクールという文言を使わなかった理由ですが、こちらについては、現在導入を進めている段階でしたので、このコミュニティスクールという言葉を使わずに、このような表現とさせていただきました。

大石委員

それでは、導入を進めているのであって、今後4年間で、この計画年度においてはどのくらい進む予定か。

吉川学校教育  
担当参事

令和7年度には、市内47校全校で実施をしております。

吉川学校教育

令和7年度には、市内47校全校で実施をしております。

担当参事

大石委員

重ねて申し上げるが、令和7年度にやっていくのであったら、もう既に分かり切っていることで、きちんと書いていったほうが分かりやすい計画づくりになったのではないか。お考えをお聞かせいただきたい。

中田学校教育  
部長

コミュニティスクールも7年度からの全面導入ということですが、学校ではコミスクに限らずに、地域の方と連携をしながらやっていかなければいけないこともございましたので、このような表現にさせていただいたというふうには捉えております。

石本委員

45ページの(2)課題の一番下のところ、児童生徒の発達段階及びコンピュータへの習熟度を考慮した上で、紙媒体、コンピュータを活用した学習方法を選択して提供する必要がありますというのが、それは子どものところで分かるのだが、今年度当初予算で、昨年度まであったICT支援員7,200万円とか全額カットしたのではないか。それで、私もちょっと耳にしているが、教育の現場で結構このICT支援員がいなくなったことで、非常にいろいろと、大きくはないけれども、細かなトラブルとか、お困りになっている点が先生方にあると耳にしている、正直言って。

これ、生徒のほうだけ書くのはいいのだが、課題としてICT支援員の教員のほうの対応、これは課題に上げなくてよろしいのか。

中村教育センター担当参事

今、石本委員のほうからありましたけれども、ICT支援員につきましては、当初の目標でありました校内におけるICT機器の活用に関する学び合いができる状態にまで、現状、パーセンテージが上がりましたので、ICT支援員は他の財政状況とか、やらなければいけないこと等を勘案しまして、ICT支援員の予算は取っていない状況であります。

ただ、石本委員がおっしゃるように、やっぱり各学校では、ICT機器活用能力以外の何かちょっとした困ったことというところで、対応できる人材が今までいたのにいなくなってしまったというところは、私のほうにも一部ですが耳に届いております、そこは一定程度課題だというふうに捉えております。

ただ、その辺につきましては、教育センターとかICT支援センターというヘルプデスクもございますので、そちらに問合せいただいたりして、こちらから人足を派遣するというところで対応しているところでございます。

教職員のICT機器の活用能力について、ここに課題で書かなければならないということにつきましては、市全体の基本計画というところで、目指すところは子どものICT機器活用能力ですので、この一文にとどめておりますけれども、実際には教職員のICT機器活用能力につきましては、この計画の体系の中で、この下と言っていいのか分かりませんが、教育振興基本計画の中にしっかり明記して、そこを高めて、高めた上

で、児童生徒の活用能力、この一番下の課題に対応するというような、我々の中で関連性を図っているというところでございます。

矢作委員

(1) これまでの主な取組のところ、それから基本方針も含めてなのだが、例えば教員の負担軽減ということで、部活のことなどもいろいろ工夫された取組もされていたかと思うのだが、また基本方針のところでも、そういうことが何かあまり読み取れなかったのだが、その点はいかがか。

中田学校教育  
部長

直接関わる文言ではないかもしれませんが、2-5-1には、教師の資質・能力・専門性の向上のため、研修体制の充実とありますが、教員に負担がかからないようにするには、効果的・効率的な指導をしなければならぬとか、先ほどセンター所長のほうがICTのことも述べておりましたが、教員の研修をしていくことで、いわゆる負担感というものが軽減されるものと思っておりますので、この研修体制の充実というところも、教員の働き方を考える研修も含めてはいきたいと考えております。

矢作委員

部活の指導員の部分などは、取組の中に反映してもいいのではないかなというふうには思った。

ちょっと別の項目なのだが、第5節のいろいろ書いてあることを読むと、非常に真面目に書かれているなというか、現状がいろいろ課題があるので、こういうふうに書かれているなというふうに思えるのだが、子ども

が楽しく学校に通えるということがすごく大事なかなと思うのだが、もう少し表現の工夫とかで、ポジティブな印象の書き方というふうなことも工夫されてもいいのではないかなというふうにも思うのだが、どんな議論があったか。

中田学校教育  
部長

真面目な文章と言っていました。そういう意識では書いたつもりでございます。真剣に考えて、つくった文章がこれになります。先ほど部活の話をちょっと御質疑いただいたので、もう一つ付け足してもよろしいでしょうか。

ぱっと浮かばず申し訳なかったのですが、2-5-3には、地域とともに歩む学校というところがございますが、今現在、部活のほう、地域の方の御尽力もいただきながら運営しているところがございますので、先ほどの御質疑に付け足しますと、ちょっとこの部分も部活には関わってはいるかなと思っております。

斉藤委員

45ページの(2)課題のところに、3つ目、学校・家庭・地域の連携を発展させ、効果的な教育活動を持続的にできる環境の整備を進めていく必要があるという課題を上げているが、先ほど大石委員が2-5-3で、地域が信頼する学校づくりの推進ということで、コミュニティスクールという言葉を使わないのはなぜかという中で、令和7年度からの導入をする、そして47校全てにというお話があったかと思うが、この課題を解決

するに当たっての具体的な政策とか方針があるのかということと、それが学校の中につくられるものなのか、それとも学校の外に箱をつくって、大きなことで動くのかというところをちょっと教えていただきたい。

刈谷学校教育  
課主幹

具体的な方針につきましては、やはりコミュニティスクールを活用し、地域も学校も共に元気になっていくということを狙っているところでございます。

この方針につきましては、各学校の実態に応じまして、方向性が変わってくると考えておりますので、まずは学校でしっかり議論をして方向性を定めていただこうと考えています。今後、それを集約、市全体として方向性を決定する必要があるかも含め、検討はしていきたいと思っております。

斉藤委員

ということは、大きな箱をつくってということではなく、まだ話合いの段階ということでしょうか。

刈谷学校教育  
課主幹

そのとおりでございます。

大石委員

市長公約とかの話になるが、教育委員会にはなかなか市長は直接介入できないと思うが、それでも市長が新しく替わって、何か御指示をされたか。

選挙公約も踏まえて、その中で御指示をされたことがどのようなことなのかというのが知りたい。

それから、給食費無償化というのは非常に大きな金額を要するもので、御指示があったと思うが、それから体育館のエアコン、空調設備の整備というのも大きな市長の公約の1つだったと思うが、段階を踏むと、その次に修学旅行無償化というのもあったと思うのだが、そういった御指示があって、御検討されたかどうか伺いたい。

千葉教育総務  
部長

主な指示ということですがけれども、一番大きなものは、やはり給食費の無料化だとこちらのほうでは捉えております。

それから、空調につきましては、公約にございましたとおり、こちらのほうも教育委員会の中では、先ほど教育施設課長が言ったように、できるだけ速やかに進めていきたいという考えの下、教育委員会だけで決定できるものでもありませんから、これは全庁的な調整会議を踏まえて、今進めているところがございます。

それからまた、もう一つの公約、修学旅行の無料化につきましては、現段階で何か議論を進めているということはありません。

大石委員

それでは、いじめ対策につきましては、市長から何か特別な指示はあったのか。小野塚市長は、おのづか勝俊チャンネルというところで、いじめ対策についてなどの発言をされていたりとかして、一般質問もこれまでし

てきたが、いじめ対策については市長から何かお話があったのか。

中田学校教育  
部長

いじめとともに、不登校対策は喫緊の課題というふうには言われておりますので、こちらは先ほど学校教育担当参事が申し上げましたとおり、課題を抱える児童生徒の早期発見、早期対応等を努めるようにということで、市長にもいろんな場面ではお話をさせていただいています。

斉藤委員

46ページの2-5-2、豊かな心の育成の中に、道徳の授業を充実させ、道徳性を育みと、とても大事なことだと子どもに関して思う。それに対して、教科書、今までの道徳の授業と違って、どういったことで強く道徳性を育んでいくのかということをちょっと教えていただきたい。

中村教育セン  
ター担当参事

今の御質疑にあった道徳の授業についてでございますけれども、学習指導要領が前倒しで変更された経緯は、以前に県外ですけれども、生徒の自殺が問題になって、教育再生会議が行われて、道徳の授業を抜本的に改善しようというところで、全国的に改善を図っているところでございます。

具体的な改善としましては、道徳の教科書なりの読み物を読んで、みんなで考えるのですけれども、ただ、それだけですと、読んで正しさを確認、正しさの確認というのは大事なのですけれども、正しさを確認し、これからはこうしていきましょうというような道徳が問題視されておりました。

全国的に道徳性を高めるという学習指導要領の改訂のきっかけになっ

た事象があつて、そこから自分なりの考えをまず持って、友達はどう考えているか、しっかり聞いて、今後、自分もそういう立場に置かれたときに、どう正しく行動できるだろうか。ただ、正しく行動するというのは一朝一夕にできるものじゃなくて、その場に立たされたら難しいんだよという、考え、議論する道徳というところにシフトしているところでございます。

粕谷委員

まず1件、確認だけちょっとさせていただきたいのだが、不登校児童生徒なのだが、(2)課題の中の2番目に入っているということによろしいのか。

刈谷学校教育

2つ目の課題を抱える児童生徒の中に包括しております。

課主幹

粕谷委員

そうすると、教育委員会の対応としては、ある意味は理解できるのだが、学校で適切に行うためというふうに入っている。今、実際に学習支援もそうなのだが、要するに多様性という、そういう社会ではないか。学校に戻すというだけが全てじゃなくて、不登校支援は学校へ戻すだけが支援じゃなくて、そのほかの支援というのも必要になるのかなんていうふうに思っているのだが、この辺で読み取れるのか。また、その支援をどう考えているのか。

吉川学校教育  
担当参事

こちらにある適切という言葉で、今、委員おっしゃられたとおり、状況は様々でございますので、例えば、必ずしも毎日通えるとは限りませんし、必ずしも教室まで行けない子もいる、様々な対応ということで、この適切に行うというのは含めております。

粕谷委員

適切に行うのだろうが、学校でというふうになっている。これが、学校以外でも様々な活動をされているというか、支援もされているところもあるかと思うのだが、その辺をどういうふうに捉えているのか。

中田学校教育  
部長

文言の話になりますが、早期発見と早期対応を学校で適切に行うということで、まずいち早く見つけること、そして見つけたら何ができるかということで、関わるのが対応で、今、粕谷委員がおっしゃった学校だけじゃないということにつきましては、その後のスクールカウンセラー等積極的な活用と専門機関との連携ということで、おっしゃるとおり、学校に来させることを無理に急ぎ進めるものではありません。早期解決ということではなく、じっくり時間をかけなければならないものについては、個別の対応は必要かと考えます。

粕谷委員

最後に確認なのだが、これは不登校を学校に戻すということが基本指針としてあるかと思う、教育委員会の中では。先ほど言った多様性の社会の中で、なかなかそうはいかないというお子さんもいらっしゃるかなと思

う。それもここで読み取ってよろしいのか。再度、確認なのだが。

刈谷学校教育  
課主幹

ここで読み取っていただいて結構でございます。

斉藤委員

47ページの2-5-6なのだが、就学が困難な児童生徒の保護者に対し、必要な援助を行うということなのだが、今、市内でどのぐらいの方がこの対象になるのか、大体の数字を教えてください。

鈴木教育総務  
課長

小学校におきましては、準要保護につきましては大体2,000人、中学校については大体1,000人、要保護につきましては、両方ともおよそ100人ほどでございます。

島田委員

関連してなのだが、ここに記載があるということは今までもやっていた、要保護・準要保護世帯への就学援助ということももちろんなのだろうが、今、大体クラスに7人ぐらい、いわゆる子どもの貧困と言われている御家庭があると。そういった中で、やっぱり市内横断的な連携というの必要かと思うのだが、これはこちらの文脈で読み取れるという理解でよろしいのか。

鈴木教育総務

こちらについては、福祉部の生活福祉課ですとか、そういうところとも

課長

連携は取っておりますので、読み取っていただいて大丈夫かと思えます。

石本委員

これは千葉部長に伺うが、(2) 課題のところ、食物アレルギーのところは書いてあるわけだが、先ほど大石委員からもあった給食費の無償化の話でいくと、9月定例会でも1億円追加補正出たとかになるわけで、ちょっとこの先はどうなるか分からないが、今後4年間、食材費がどんどん上がっていくということも考えられるわけである。

そこで聞きたいのだが、課題に上げていないということは、給食費の無償化に関しては、市長の一丁目一番地の公約だから、どんな金額になってもこれは確保されるから課題に上げなくていいという認識でよろしいのか。

例えば、今は13億円だが、18億円ぐらいになっても、これは何が何でも優先されるお金だから課題として上げなくていいとか、その辺はどういうふうな、市長から指示とか、扱いになっているのか。

中田学校教育  
部長

具体的に幾らになってもいいからというようなことではありませんが、こちらについては続けていくものというふうに、こちらは捉えております。

大石委員

財政状況が厳しい中におきまして、教育委員会が所管しているスポーツ施設などは、直営とかが結構、市民体育館も含めて多いのではないかなと

思うが、何かこういう財政状況が厳しい中で、給食費無償化や、それから空調設備も30億円以上かかってくる、そういった中におきまして、財源確保というのも教育委員会としても何か考えていくことも大切だと思う。何かそのような、特にスポーツ施設関係とかでお考えになっていることとかはないのか。

三上スポーツ  
振興課長 体育施設を運営していく中で、何か経費削減に努めているかということ  
でよろしいですか。

大石委員 いや、歳入が増えるような取組をしているかどうか。経費削減は普通、歳入が増えるような取組を、やっぱり教育委員会でも財源問題は大切だから、財務部だけではなくて、一緒に考えていく必要があると思う。そういったものを、例えば文化財保護課だったら補助金をもらってくるとか、それからクラウドファンディングするとか、考えると思うのだが、やっぱり教育委員会でも考えていくべきだと思うのだが、財源確保というのは。  
考えていなければ、今のところ教育委員会に指示来ていないからしていませんとかでも、しょうがないからいいのだが、今どういう状況か。

三上スポーツ  
振興課長 歳入を上げるといった点では、今年大相撲の所沢場所を誘致させていた  
だいたりですとか、大規模なスポーツイベント、こういったものを市民体育館で開催することによりまして、収入の増を図るように努めているとこ

ろでございます。

矢作委員

57ページの(2)課題のところ、女性や働く世代、子育て世代等が参加できるようなスポーツ大会や教室等の充実を図る必要がありますというふうにあるが、基本方針のほうを見ると、特段何か文言として入っている印象はないのだが、全てのところで努力していくというふうなことでよろしいのか。

三上スポーツ  
振興課長

基本方針でいいますと、3-5-1のスポーツ活動を通した健康・体力づくりの推進の中で、ライフステージに応じたスポーツ活動が気軽に楽しめる環境といったところで該当しているかと思います。

大石委員

68ページ一番下の行で、また、本市が元々持っている文化や伝統を守り、次代に継承していくとともに、まちの魅力として国内外に積極的に発信しますとあるが、教育委員会でもこの部分は担当されているのか。担当しているのなら、どのように発信するとお考えなのか、お聞かせいただきたい。

稲田文化財保  
護課長

文化財保護課の所管としては、本市が元々持っている文化や伝統を守り、次世代に継承していくというところまでは、具体的に落とし込んでいるのですが、国内外に積極的に発信しますというところは、文化財発信で

はないところの書きぶりになっているかと思います。

大石委員

79ページ(2)課題の、国登録有形文化財「秋田家住宅」と敷地全体の整備活用については、文化財保護の視点だけではなく、地域の商業や観光の活性化にも寄与することが求められますとあるが、今現在、商業や観光とはどのような連携を図りながら、取り組んでいく事を考えられているか。

川島文化財保護課主幹

現在、こちらの課題にもありますとおり、教育委員会だけでは、この課題については乗り越えていくことは難しいということなので、産業経済部、またその他、まちづくり計画部、市の全体的な課題という形で捉えておりますので、庁内検討会議をさせていただきながら、事業を進めているところでございます。

大石委員

次の、文化財の保存継承の大切さを伝えるには公開活用が有効ですが、個人所有の文化財も多いことから、公開活用には様々な課題があり、保存継承と公開活用のバランスを図る必要がありますとあるが、この個人所有の文化財も多いことから公開できないというところの御説明を、なかなか私、理解できなかったのをお願いしたい、現状について。

稲田文化財保

文化財につきましては、先ほど言ったとおり、有形文化財で個人の方が

護課長

財産として持っているものも、市の指定をさせていただいております。そちらについては、やはり市の指定をしているので、多くの方に見ていただきたいというところで、私たちとしては2年に1回の文化財展ですとか、そういうところでお借りして、市民の方に親しんでいただく機会を設けております。

ただ、文化財所有者に行ったアンケート結果では、所有者の回答の方の60%が、文化財の公開活用を重要に感じていますかということで、60%が重要に感じてはいるのですが、積極的に公開活動したいと思う割合が35%、思わないが43%と、やはり思わない方が多くて、その理由としては、公開にかかる費用や人員、それから防犯、見学者のマナー、そういった課題がありますので、こちらの課題解決がこれから必要かなというところで、課題のほうに書かせていただいております。

大石委員

今言った秋田家住宅のところと、個人所有の文化財も多いことからという文章が、素案の段階では1つの文になっていたのだが、今回提案させていただいて、箇条書で2つに分かれた。この個人所有の文化財も多いことからというのは、秋田家住宅のほうには関わっていないということではないのか。

稲田文化財保

護課長

冊子を最初につくったときが、5-6-2の課題として1つにまとめた形で、課題を文化財保護課のほうでまとめてしまって、委員のほうから分

かりにくいという御指摘を受けまして、経営企画部にも確認させていただいて、同じ基本方針5-6-2に関わる課題でも、2つに分けて、秋田家とはまた別の課題というところで示させていただいているものでございます。

大石委員

80ページ、5-6-3ふるさと研究の推進の中段の、市が所蔵する郷土資料等を良好な環境で一元管理し、後世に伝えていくための保存施設については、既存施設を見直し、施設の整備を検討しますとある。応援もしてきたが、どのようにこの4年間で検討していく予定か。

稲田文化財保護課長

収蔵施設については、前期計画におきましても、既存施設を見直し、施設の整備に向けて検討しますというような記載をしております。これを受けまして、令和元年度から、8部10課で組織いたします庁内検討調整会議を立ち上げて、関係課で検討を進めてきております。

その成果を踏まえまして、今回は検討しますというふうな表記にさせていただいております。まずは資料管理のデジタル化を令和6年度から予算をお認めいただきまして、進めているところでございます。

大石委員

確認だが、ほかの項目に比べて、いわゆる箱物の検討というのは、ここはすごい読んでいてバランス的に突出しているなというふうに思った。応援しているのでいいのだが、基本的に財政確保とか総額はどのくらいか

るとか、今御検討されているところはあるか。

稲田文化財保  
護課長

金額のほうは、まだ庁内検討会議では、どのような規模にするのかのところまで合意形成もできていない状態ですので、現時点では金額のところまでの議論は進んでいない状況でございます。

大石委員

秋田家住宅については、伝統的建造物整備活用検討構想の中で、5億円以上かかるというような計画が出ているが、今の段階で、この4年間で総額どのくらいかかるか試算されているか。

川島文化財保  
護課主幹

こちらにつきましても、整備をこのような形でやっていくという確定ができていないので、現状は出していない状況でございます。

矢作委員

80ページの5-6-2と5-6-3に関わる部分なのだが、5-6-2のところでは、最後の文章で、埋蔵文化財についてはということがあって、記録保存を行い、その情報を後世に伝えますということで、記録保存ということで、会派のほうでは、必要と判断された史跡文化財は保存するということも必要じゃないかということで意見を出させていただいたのだが、5-6-3のところでは、2つ目の段落のところでは、既存施設を見直し、施設の整備を検討しますとあるが、具体的に何か保存する施設とかということを検討されているのか、ちょっと御説明いただければと思う。

稲田文化財保  
護課長

5-6-2のところの埋蔵文化財のところは、やはり開発もありまして、市内で今土地区画整理事業のほうも進んでおりまして、開発に伴う発掘調査も増えておりますので、あえてこちらの後期基本計画からは出して書かさせていただいております。

ふるさと研究活動の推進のほうで書いてあるところは、先ほどの収蔵施設の検討というところになりますので、現状でかなり、分散保管している現状の老朽化のほうが進んでおりますので、まずは収蔵施設だけでも何とか進めたいというところで、こちらのほうを記載をさせていただいております。

斉藤委員

97ページ(2)課題のところなのだが、一番上に、同和問題のほか、ヘイトスピーチやLGBTQなどの人権問題についてとあるが、拉致問題とかというのは検討には入らなかったのか。

奥井社会教育  
課長

人権の課題が、かなりたくさんのテーマがあるものですから、この中では拉致問題までは言及はなかったというものでございます。

斉藤委員

LGBTQと、この一つ一つの文言に意味があるかと思うのだが、LGBTQまでとした理由があれば。

奥井社会教育  
課長

LGBTQにつきましては、この数年間で各自治体でパートナーシップ  
制度を導入したりして、社会的な関心が非常に高まっているというところ  
もございますので、記載がされたというふうに考えております。

休 憩（午前11時58分）

（説明員交代）

再 開（午後1時08分）

（健康推進部）

【補足説明】 な し

【質 疑】

矢作委員

11ページ、第3章の健幸長寿のまちの健幸の幸だが、幸せという字で、  
あまり普通には使わないと思うが、これはまた後期のところでもこの文字  
を使っていくというふうに検討された結果、こうなっているということ  
か。

松本経営企画  
課主幹

この健幸長寿のまちの幸が幸せという字になっておりますのは、基本構  
想でまちづくりの目標で7つのまちづくりの目標を設定しておりますが、  
その表記がこの表記でございますので、この第3章のこの表記もそれにそ  
ろえているものでございます。

石本委員

49 ページの評価指標のところをちょっと確認させていただきたいのだが、以前、男性で80歳ぐらいのときは、県内はたしかそのときは長寿、男性は県内1位だったが、まず、令和5年は県内はないので、この目標の令和10年で84.1歳ぐらいになると、どれぐらいの順位とか、何か目安とか目指しているものはあるか、県内順位とか。

近藤健康づくり支援課主幹

まず、最新の健康寿命の順位につきましてですけれども、令和5年度に公表されている令和4年度のもので最新値となっております、男性が10位、女性が15位となっております。この目標値になった場合の順位につきましては、そちらのほうについてはまだ予測というものは立てておりません、あくまでも順位というのは相対的なものになりますので、健康寿命そのものの期間を今回目標値として挙げさせていただいたものでございます。

石本委員

以前よりどんどん数字が伸びて長寿になってきている。伺いたいのは、これは何か計算式みたいなものがあるのか、それとも、国が発表している数字なのか、そこも確認させてもらいたい。

近藤健康づくり支援課主幹

こちらの数値につきましては、埼玉県衛生研究所が発表しております埼玉県の健康の総合ソフトによりまして、毎年度公表されているものでございます。

石本委員

ここの項目はこれで最後にするが、以前、私が川越市へ視察に行ったときに、こういう数字の話になったときに、川越と所沢だと、例えば、川越の人というのは漬け物を食べる量が所沢の人より多いと言われて、だから健康寿命が所沢より下なのですみたいなことを言って、食生活がすごく影響するとかで、そういうデータとか所沢の特色というので何か把握されているものはあるのか。

近藤健康づくり  
支援課主幹

委員がおっしゃられているとおり、川越市は最新で、男性39位、女性は47位となっております、当市の先ほどのお答えした順位よりも下という数値となっております。

先ほどの衛生研究所の健康指標総合ソフトによりますと、いろんな所沢市の傾向が分析されております。全体的には、所沢市民の方は非常に頑張っております、あまり県内平均と比べて健康状態の通知表みたいなものなのですけれども、悪いものはあまりないのですけれども、逆によく頑張っているというところが、よく歩いているというところは1つあるかなと思ひまして、所沢市民の方、皆さんが頑張っておられるので、この健康寿命も延伸されているのかなというふうに思っております。そちらはよく歩いているというような数値となっております。ほかの健康指標総合ソフトだけでなく、県の衛生研究所でいろいろな分析データがありまして、そちらで傾向をつかむとそのようなものになっておりますし、データ

的にもそれほど悪くないというふうな結果になっております。

斉藤委員

授業の中で食育の授業があるという認識ではないのか。

岩雲健康づく

直接保健センター等の職員といたしましては、食育の授業をしてはおり

り支援課長

ませんけれども、先ほど家庭教育学級のお話がされていたかと思いきや、  
けれども、そちらのほうから依頼教育等がございますので、そちらでそうい  
ったお話もさせていただく機会がございます。

大石委員

関連で、農業振興課でオーガニックビレッジ宣言を来年度やる。それで  
食育というのが1つあって、消費者と農村をつないで、地元のオーガニッ  
クとかの野菜を広めていきたいと思いますと活動をするのだが、食育の中で連携  
はされているのか。

岩雲健康づく

6月に食育の推進月間のほうを行っておりまして、この際に農業の所管

り支援課長

課とも一緒に連携しまして、食育の推進を図っておるところでございま  
す。

大石委員

今、中核市に向けて保健所を検討しているのだが、保健センター等との  
連携で、保健所の整備の中で何か検討していることはあるか。

小山健康推進  
部次長 保健センターと保健所の機能の集約化につきましては、今後の検討という  
ことで考えておりますけれども、市が設置する保健所として、現在保健  
センター等で行っている業務との連携については考えていきたいという  
ことで考えております。

石本委員 51 ページ (2) 課題の一番上のところで、小学校就学後に接種する日  
本脳炎ワクチンや二種混合ワクチンの接種率の向上が課題ですというこ  
とだが、まず、この接種率は今現状はどうなって、例えば県内で何位だと  
か、そういう目安になるものはあるのか。

田中健康管理  
課長 日本脳炎ワクチンにつきましては、接種率は、令和5年の実績としまし  
ては101.4%、二種混合につきましては84.2%です。県内の順位  
等については、すみませんが把握しておりません。

石本委員 101.4%だけれども、まだ接種率の向上が課題なのか。

田中健康管理  
課長 こちらにつきましては、トータルでは100を超えてはいるのですけれ  
ども、9歳から13歳未満の就学以降の児童につきましては、接種率が伸  
び悩んでいるということが部分的にはありますので、一応目標とさせてい  
ただいております。

石本委員                    そうすると、これは所沢特有の課題なのか、日本全体とか、埼玉県全体は大体こういう傾向とか、それはどうなっているか。

田中健康管理課長                    どうしてもゼロ歳から6歳に比較しますと、就学以降の予防接種の率につきましては全体的に低い傾向にあると理解しております。

矢作委員                    51ページの(2)課題の2つ目で、心筋梗塞と糖尿病の標準化死亡比が県平均より高い現状をとあるが、県平均が幾つで、所沢の現状が幾つかというのを伺いたい。

近藤健康づくり支援課主幹                    ただいまの質疑なのですが、全体的に先ほど所沢市の健康寿命はあまり悪くはないということをお答えしたところではあるのですが、この2点につきましてはちょっと課題となっておりまして、最新の2022年データで、比較のために標準化というものをしまして、埼玉県が100ということに対して、糖尿病については132、急性心筋梗塞については100に対して205というふうになっておりまして、心疾患が多いということについてはちょっと1つ課題として挙げられるかと思われま

矢作委員                    52ページの3-2-2のところ、国保データベースを用いたデータ分析や地区診断を基盤として、地区の特性に合わせた生活習慣病予防の取組とあるが、地区ごとの何か傾向というのがあるのかということ、どうい

う内容かということで伺いたい。

近藤健康づくり  
支援課主幹

国保のデータベースシステムで分析等をしますと、地区ごとによって血圧の高い地区ですとか、糖尿病の率が高い地区というのが、もちろん国保のデータベースですので、国保に加入されている方というところでの分析にはなりますけれども、どちらかというところと西部地区というか、三ヶ島地区ですとか、そういうところで少しデータが高かったりですとか、その年によって違うのですけれども、健診の受診率が地区によってばらつきがありまして、小手指地区などは高いですけれども、山口地区などは若干低いとか、そういうようなことは分析として分かっているところでございます。

斉藤委員

52ページの3-2-3、がん検診の普及啓発ということだが、がん検診を啓発するよりも、まずがんを減らすこと、目的はがんを減らすことだと思う。海外との比較をした場合、日本だけが、韓国もですか、がん患者が増えていて、欧米はがん患者が減っている。つまり国内で考えたときに、がん検診をして早期発見、早期治療でがんを治そうと。ただ、その発見したときにはがん細胞が体の中で増えていて既に病気になっているわけで、予防をしっかりしなければいけないと思う。海外のほうはがん患者が減っている、その違いは何だろうというところを考えたとき、やはり食べ物、先ほどの食育、悪いものを食べているから体が悪くなる、がんは感染症ではなくて、外から来るのではなく自分の細胞ががん細胞に変異していくも

の、つまり環境とか食べ物に気をつければがんは減ると思う。その辺の食育の考え方というのはどうなっているのかを教えていただければと思う。

岩雲健康づくり  
支援課長

がん検診ですとか、そういったところの関連での取組ではないかもしれませんが、市町村の栄養士が複数の課にまたがっておりますので、そちらの栄養士のほうで定期的に情報交換会も行っておりますので、そういったところで各所属に配属されている栄養士が、保育園であれば保育園であったり、学校であれば学校というところで食育については力を入れているところでございます。

福原委員

51ページの評価指標ですが、大腸がん健診の受診率を挙げているが、まず、いろんながんがある中で、検診がある中で、この大腸がんの検診を挙げた理由をお示しいただきたい。

田中健康管理  
課長

仮に、早期発見、疾病予防の観点から、多くの市民に行動変容が認められるかどうか指標とされるならば、大腸がん検診がほかの項目と比べまして、よりふさわしいと指標設定当時には判断されたと考えております。

大腸がん検診につきましては、40歳以上の男性、女性、いずれも受診可能で、市の集団健診、個別健診のいずれも手軽に受診できるため、対象の範囲が広く、受診の間口が広げられている検診です。その中で、市が早期受診、定期受診を促すよう、周知啓発や受診勧奨に取り組むことによっ

て、受診率が向上したかどうか、すなわち市民に行動変容が見られたかどうかを指標として選ばれた理由でございます。

また、市が実施しています6がんの受診率につきましては、対象年齢の範囲や受診率の計算方法がそれぞれ異なっていますため、年度間での有意義な比較が難しいという事情もありまして、大腸がん検診単独の受診率を指標とさせていただいております。

福原委員

一生懸命説明していただいたのだが分かりづらい。要は、大腸がん検診を代表的に挙げることによって、全体的な健診率についての指標の1つの目安になると、そんな考えでよろしいか。

田中健康管理  
課長

分かりづらい説明で大変失礼しました。委員がおっしゃるとおりでございます。

福原委員

具体的な数字だが、現状、令和5年が8.1%で、目標が令和10年が9.0%になっている。これは県内もしくは全国の受診率と比べてどんな感じなのか、分かる範囲でお示しいただきたい。

田中健康管理  
課長

大腸がん検診でございますが、すみません、データの的には令和4年度になるのですが、他市のデータを一部紹介しますと、狭山市11.9%、入

間市10.1%、飯能市3.7%、川越市9.6%、越谷市9.8%という状況でございます。

矢作委員

評価指標のところ、大腸がん検診ということで挙げられているが、先ほど心筋梗塞とか糖尿病のこともあったが、市民の疾病等の傾向とか課題というところでは、今回はがんが挙がっているが、ほかに課題というのがあるか。

近藤健康づくり支援課主幹

先ほどと同じような御答弁になってしまうのですが、基本的に所沢市民の方は健康状態はそれほど悪くはなくて、ほかの死亡割合、標準化の死亡率とか、そういうものを見ましても、県平均よりも悪いようなものはございませんで、悪いものというのは、本当に死亡率でいきますと糖尿病と心筋梗塞が高いという、そこが課題かなというふうには思っております。

矢作委員

この評価指標では大腸がんというのを挙げていただいているが、5がんの罹患率みたいのは分かるか。もし分かれば伺いたい。

田中健康管理課長

申し訳ございません。5がんの罹患率については把握しておりません。

佐野委員長

この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

島田副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

佐野委員

先ほどから石本委員と矢作委員の質疑を聞いてすごく疑問に思ったところがあるのでお聞きする。所沢市としては平均よりも結構上で、健康寿命自体はすごく延びて、ちょっと上位にあるというところだが、一方で、DMが県が100に対して132だったり、MIに対しては205だったりしているというところがあって、それを見ると健康の二極化というのが起きているのではないかなと思うが、そういったことを示唆するようなデータは何かあるか。

近藤健康づくり

支援課主幹

この2つについて、高い原因というのは本当にどういうことなのだろうということは、私たちも非常に気になるところでございます。もちろん個人の生活習慣だけが疾病と関連があるということではないのですが、あと、糖尿病に関しては体質的なもの、そういう影響も、遺伝素因も、御両親どちらかが糖尿病の方だったりすると、そうでない方に比べれば糖尿病にかかりやすいですとか、そういうことはあるかと思えますし、心筋梗塞についても、いわゆる血管の動脈硬化が影響しているものになりますの

で、高脂血症でしたりとか、糖尿病でしたりとか、そういうもともとの病気が積み重なることによって発症リスクもあるのかなというところは推察されるところであります。あと、ストレスとかもありますので、ちょっとはつきりはごめんなさい、これだというものはないのですけれども、そういうようなものが考えられるというふうに推察されるところでございます。

佐野委員

なので、そうなるとう当然、不健康な方が多いということは、健康寿命にも影響してくるはずなのに、それが影響してこないということは、極端に健康な方がそれを引っ張っていつている、極端に悪い人たちを引っ張っていつて二極化が起きているのではないかというような気もしている。

健康なほうの数値というのはなかなか出てこないのかなとは思いますが、そういつたところの把握は特にされていないということか。極端な健康優良者がいつばいいないと、これだけの心筋梗塞と糖尿病患者を抱えているためよい数値は出ないと思う。

近藤健康づく  
り支援課主幹

推察はしているところではあるのですけれども、ちゃんとしたデータというものは持つてはおりません。ただ、トコトコ健幸マイレージに代表されます、いわゆる健康無関心層の方たちに対する取組といいつますか、やっぱり健康に関心のある方はどんどん健康になっていくけれども、あまり皆さんが健康に関心があるというわけではありませないので、そういう方も全

体的にポピュレーションアプローチといいますか、全体的に健康度を上げていく中で、マイレージ事業もそうなのですけれども、無関心層も取り込んで、ふだんあまり健康に関心がない方も、楽しみながらやっていく中で健康度を上げていく取組というのが、引き続きそういう二極化を少し狭めることにつながるのではないかというふうに、これもすみません、推察というか考えられると思います。

島田副委員長

それでは、委員長と交代します。

斉藤委員

関連して、先ほどのデータというのは2022年だったと思うが、この心筋梗塞と糖尿病の高い数値というのは、どのぐらい前から所沢ではあるのかというのが分かったら伺いたい。

近藤健康づくり支援課主幹

手元にデータがなくて申し訳ございませんが、少なくとも10年以上前から、この埼玉県総合指標対策ソフト、名前が不明確で申し訳ありませんが、ソフトについては毎年発表されております。そして、糖尿病の数値でしたりとか、心疾患について課題であるということについては、以前から認識しているところでございます。

大石委員

53ページ(2)課題のところでも、市民がいつでも安心して医療の提供を受けられる体制(初期救急及び二次救急)を引き続き維持するとともに

にとある。また、基本方針3-3-1で救急医療の充実、維持しますということだが、小児も二次までも全て24時間365日可能になったのか。

河西保健医療課長 所沢地区の二次救急の体制でございますが、小児も含めまして全ての曜日、時間帯において対応が図られております。

矢作委員 55ページ、人工透析の新規移行者数が全国的に増加傾向というふうにあるが、どういうふうな増加傾向の状況か。

石川国民健康保険課長 申し訳ございませんが、具体的な数値は持ち合わせていないのですけれども、全国的に増加傾向にあるために、生活習慣病の重症化予防対策に力を入れているというのは国のほうでもございますので、そういった傾向にあるという認識でおります。

粕谷委員 関連なのだが、これは所沢市の計画で、所沢市の総合計画かと思うのだが、全国的な傾向が高いというだけの根拠でこの総合計画をつくるのはちょっと違うのかなと思うが、その辺はどうなのか。これで全国的に増加傾向にあるため当市も例外ではないとか、それが見られるからやるんだということだったら分かるが、その辺はどういう考え方で入れたのか。

石川国民健康 全国的な傾向ということで、高齢化の進展等が原因として考えられます

保険課長

ので、所沢市におきましてもそういった傾向は例外ではございませんので、今後そういった状況にならないために、このように目標値を定めることは必要だと考えたところでございます。

矢作委員

56ページの評価指標で特定健康診査の受診率ということで、上げていくということだと思うが、これは国民健康保険の部分かと思うが、具体的にどのようなことで上げていくのかを伺いたい。

石川国民健康

保険課長

受診率を上げるための具体的な取組ですけれども、早期受診のキャンペーンを行ったり、未受診者の方に勧奨通知を送る際に、過去の受診傾向から行動変容が起きそうな方に対して、重点的な勧奨を行うような通知を発送したりしているところでございます。

石本委員

特定健診のところで、これはずっと課題になっているわけだが、自治体によっては民間に委託して、この受診率向上の取組とかを図っているところもある。失礼だが、いつもこの受診率のところだと石川課長が御答弁されたような答弁がこの10年ぐらいつと続いているが、何か新しい対策とか、委託するとかを検討したことはあるのか。もししていたならば、どういうことを検討したけれども実際踏み切れなかったのかとか、その辺をちょっとお示しいただきたい。

石川国民健康  
保険課長 受診勧奨の通知につきましては現在委託しているところでございますが、また、特定健診の受診率に伸び悩んでいるところでございますので、他市等を参考にしながら受診率のほうを検討していきたいと思っております。

石本委員 確認なのだが、この特定健診の受診率は、一番最初に特定健診がスタートしたときは、一定の数字にいかなければ国か県か忘れたが、補助金が減額されるペナルティーが科せられるというふうなルール設定だったかと思う。今こうやって、これは所沢市だけではなくて、特定健診の受診率の問題は全国的課題になっているわけだが、特段目標値を達成しなくてもペナルティーとかはないのか。

石川国民健康  
保険課長 目標値に達しないことによるペナルティーというのはございませんが、受診率が低いところで、保険者努力支援制度でのマイナス評点という項目はございます。

石本委員 そのラインというのは、受診率何%になるとそれが適用されるのか。

石川国民健康  
保険課長 指標につきましては、受診率が25%以上33%未満の値となっている場合に、マイナス15点となるものでございます。

斉藤委員 関連だが、受診率を上げるということは目標になっているかと思うが、

先ほどの私の質疑と重なる部分もあるかと思うが、結局病気を減らすことが一番の目的であって、受診率を上げたその結果、病気も減っているというように、そういう試算をしたものは何かデータとしてあるのか。

石川国民健康  
保険課長 国民健康保険のほうでは、様々な医療費の適正化の取組を行っておりまして、どの事業で、どれぐらい減ったということは、ちょっと一概に申し上げることができない形になっております。

島田委員 基本方針の3-4-1の保険税水準の統一化及び保険給付の適正化だが、要するにこれは県の運営方針に基づいて税率の改定とか見直しを行っていくわけではないか。それをあえてこの基本方針に盛り込む必要性というのあったのか。その辺、どのような御議論があったのか。

石川国民健康  
保険課長 国民健康保険の安定的な財政運営を図るためには、保険給付の適正化に合わせまして、埼玉県の実況に合った取組をやっていくことが重要と考えておりますことから、こちらのほうで方針としてのせたものになります。

島田委員 この内容は、今度12月定例会にも出てくるかと思うが、もう既に安定的な運用はできていないわけではないか。何が言いたいのかというと、そうした構造的な問題があるとか、今月から社会保険の拡大もあって、また

加入者の分母が減っていくという、そういうのが分かっている中で、基本方針としてはどういうふうにやったら被保険者のフォローアップができるかみたいなのが基本方針にのっているというのだったら理解できるが、単純にもう安定運営ができていない真っ赤っかの状態の国保を県の運営方針に基づいてやっていくというだけのことをわざわざここに書く必要性というのがいまいち理解ができない。そこは改めて何か御議論とかはなかったのか、同じ安定的な運営をとということだけなのか。何か補足説明はあるか。

石川国民健康  
保険課長

保険税水準の統一というのが国民健康保険の広域化に該当するわけなのですけれども、国保の構造的な問題というのが以前からあるということで、その構造的な問題を解決するための方法の1つとして広域化が示されたことになりますので、保険税水準の統一ということで運営方針に基づいた国保の財政運営を図ることは、安定的な運営に必要なことだと考えております。

休 憩（午後1時50分）

（説明員交代）

再 開（午後1時54分）

（環境クリーン部）

【補足説明】なし

【質 疑】

大石委員

60ページ(1) これまでの取組のところ、1つ目の2行目の官民連携による農地を活用したソーラーシェアリングなどによりというのは、市はどのぐらい関わったのか。

齋藤マチごと  
エコタウン推進課長

ここで指しているのは、1つは北岩岡にあります西武アグリ株式会社が今運営をしているソーラーシェアリングで、規模としては1メガワット弱ぐらいの規模のソーラーシェアリングのことです。所沢市の関わり合いとしては、このときに西武グループと日立のエネルギー関係のグループ会社と、それから、所沢市で連携協定を結びまして、このソーラーシェアリングの事業を開始いたしました。直接的な関わり合いとしては、この事業に対して市からスマートハウス化推進補助金を支給しています。

補足で、そのスキームの中にはところざわ未来電力も入っております。

大石委員

協定の中に、発電したものをところざわ未来電力に納入してもらうとか、そういう協定なのか。

齋藤マチごと  
エコタウン推

未来電力の関わり合いとしては、そこで発電された電力の買取りということが協定の中で協議されて、今も現在買取りを未来電力がしているところ

進課長 ろでございます。

石本委員 この第1節脱炭素社会のところで、全般的に聞きたいのだが、来年以降4年間で、市長から具体的にこういう取組をやれという指示はあるか。あるなら、どういう政策なのかをちょっとお示しいただきたい。

齋藤マチごと 先般、脱炭素社会を実現するための条例を制定いたしまして、その後、エコタウン推進課長 市長が交代されました。市長とこの第4章についてお話しをさせていただく中では、具体的にこれをやってというような指示はございません。

石本委員 市長の公約に、ゼロカーボンシティの推進、SDGs未来都市に、SDGsアドバイザーの資格者の目線で政策をより推進というのを公約に掲げている。だから、何かをより推進させるものかなと思ったが、本当に具体的な話は来ていないのか。小野塚色のこの政策を来年以降4年間でやるという、それを本当にならなければいいから確認させていただきたい。

齋藤マチごと 具体的な施策について、これをせよといったような指示は今のところはエコタウン推進課長 受けておりませんが、環境ですとかゼロカーボンというのは非常に大切なものですので、これまでの取組を踏まえてしっかり進めてほしいという指示はございました。

齊藤委員

大枠でいいのだが、脱炭素社会に向けて企画というかやること、SDGsも加えて、財政的な金額はどのくらいプラスに使って行おうとしているのか。

齋藤マチごと

エコタウン推

進課長

今後、市のこの目標に向かってどれだけ財政負担をかけるのかというか、財政の負担がかかるのかというような御質疑だと思います。現時点では、いろいろあるのですけれども、1つは予算があまりかからないような施策もございます。例えば、市民への啓発活動であったり、事業者との連携であったりというようなことが非常に重要だと思っていまして、その辺についてはあまり財政負担をかけないような取組をしながら、民間企業の力も借りながら進めていきたいというふうに考えておりまして。所沢市の二酸化炭素の排出量は、家庭が30%、事業活動が、産業が15%ぐらい、民生業務といういわゆるサービス業が25%ぐらいありますので、そういったところにアプローチしていくというのが自治体としての役割だというふうに考えておりますので、まずは、そういったお金をかけないでもできるものというのをやっていきたいというふうに考えています。

もう一つ、お金がかかる部分も確かにございます。所沢市にはマチごとエコタウン推進基金という基金がありますので、売電収入を基に積み立てている基金を使って、なるべくその中でやっていきたいというふうな考えではございます。

齊藤委員

その基金のところから出すという、あまり財源を使わないというのは理解できたが、4年間で持ち出しのところは必ずあると思うので、そこを知りたい。

齋藤マチごと

具体的に、この4年先まで幾ら使うというような金額というのは、現在のところお示しできないところがございます。

エコタウン推

進課長

大石委員

これまで、狭山丘陵雑木林などを公有地化してきて、結構、藤本市政において進んできたなというふうに思うが、購入された雑木林をどうやって管理していくかということがこれから大事なことじゃないかなというふうに思うが、どのようにお考えか。

加賀屋みどり

樹林地の管理の方法につきましては、これまでと同様に原則といたしまして、落枝や倒木などの市民の生命や財産に影響を及ぼす部分に関しましては優先的に対応するということと、あと、基本的な考えとしまして、樹林地における地域性や市民の利用状況などを鑑みまして、その樹林地に沿った管理を行っていくつもりでございます。

自然課長

大石委員

予算をかけて業者に頼むという管理の方法もあるが、市民参加による雑木林などの管理というか、ボランティア活動については、今後どのような

見通しを立てられているか。

加賀屋みどり 今お話しいただきました部分なのですが、みどりのパートナーと  
自然課長 という団体がこちらのほうではございまして、そのみどりのパートナーの協  
力を最大限に活用するために、技能講習ですとか、安全講習のことなので  
すけれども、それと、活動に伴う保険ですとか、そういった部分を支援し  
ていこうというふうな形で考えて、市受託者とか、みどりのパートナーが  
それぞれできることをすみ分けて、最も効果が上がるような方法を模索し  
ていきたいと思っております。

矢作委員 62ページ第2節、みどり・生物のところ、これまでの主な取組や課  
題や生物多様性の理解と参加の推進というあたりで、市民、関係団体、企  
業というふうに入っているが、具体的な取組というが、どんなふうな形で  
取り組んでいかれるのかということをお示しいただきたい。

加賀屋みどり 企業の方との関わり方なのですが、企業の環境活動の一環で、所  
自然課長 沢市の樹林地で保全活動をされたいとかというような企業もちらほら現  
れておりまして、その方たちとどこの樹林地が合うかとか、マッチングと  
いうのですが、そのマッチングを行ったりとかはやってきておりま  
す。現に、今現在だとNTTドコモですとか、NTT東日本とかとも協定  
を交わしておりまして、一緒になって仕事を進めているというような現状

でございます。

大石委員

第1節だったかもしれないが、クーリングシェアスポットは今後も続けていく予定か。

齋藤マチごと

エコタウン推進課長

該当するのが61ページの4-1-3、気候変動の影響への適応のところでございます。気候変動で今後、熱中症対策というのが非常に重要なところになっておりますので、そういった事業は継続していくというところになっております。健康推進部とも協力しながら進めているというところでございます。

大石委員

産業経済部のところで、雑木林とか緑の所沢市の多くの魅力であるということで確認したが、今後は所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOにJTBが入っているから、一緒にトトロの森ツアーとかやっていきたいというような、産業経済部で発言があったが、これについての連携などはどのように取り組まれていかれるのか。もしくはそういう話はまだ来ていないとか、お話を伺いたい。

加賀屋みどり

自然課長

今お話しいただいた内容は私どものところに届いていないのですけれども、もしそのようなお話があった場合には、そこを利用される方が安全に樹林を楽しんでいただけるような、いわゆる環境整備の部分に尽力する

予定でございます。

矢作委員

みどり・生物の4-2-1で、市民、関係団体、企業などの参加を促しますということであるが、先ほど環境のほうでもちょっとお話があったかと思うが、小・中学生、高校生、大学生など若い方たちというのがすごく環境に関する意識があり、地球温暖化のこととか、そういう取組も大事ななというふうに思うが、この市民、関係団体、企業というところにそういう部分も入っているということか。

加賀屋みどり

おっしゃっていただいたとおりでございます。

自然課長

大石委員

第2一般廃棄物最終処分場（やなせみどりの丘）、この期間中に運営がされるのではないかなと思うが、4-3-3のところにもあるが、もう少し建設中のことなので明確に書いてよかったのではないかなというふうに思う。それと併せて運営費などがどのくらいかかるのかとか、それから、削減される処理費とか、どのくらいの差引きなのか、財政的な根拠というか、計画はどのようになっているか。

山屋資源循環

おっしゃるとおり、やなせみどりの丘につきましては今まさに建設中で

推進課長

ございまして、令和7年10月に供用開始という予定で今、順調に工事を

進めているところでございます。協議については、これまでの主な取組のほうに第2一般廃棄物最終処分場(やなせみどりの丘)整備計画を策定し、工事に着手しましたというような表現で、前期よりも進んだ表現にはしたつもりではございます。

運営費なのですが、今、所沢市内に最終処分場がありませんので、灰の最終処分、資源化に行っている部分もございしますが、最終処分について市外をお願いしている部分もございしますので、その部分でかなりの金額がかかっているところでございます。

来年度につきましては、年度途中からの供用開始ということなので、予算的にダブる部分がございます、今のところの概算ですと、来年度はちよっと費用がかさむかなというふうには考えております。ただ、令和8年度からにつきましては、もう全て基本的には最終処分場は、一部資源化の部分は外等に出す部分はあるのですが、灰については多くを市内で処分できますので、かなりの予算の縮減につながるものと今のところはそんな積算をしているところでございます。

大石委員

令和8年度ぐらいに大まかに運営費がどのぐらいかかるか、それで処分代がどのぐらい削減されるか、プラスマイナスどのぐらいありますよというの今のところ分からないか。今後どのぐらいお金がかかってくるのか。

山屋資源循環  
推進課長

あくまで概算ということで大枠の金額で述べさせていただきます。これは数字が一人歩きすると困りますので、あくまで現在の概算というふうに考えていただければと思うのですが、大体1,000万円以上は費用が削減できるかなというふうに計算はしているところでございます。

石本委員

(2) 課題の一番下のところ、西部クリーンセンターのところの記述だが、これは西部クリーンセンターのことを書いて、実際はこの文章から入間市との広域化のことを読み取ってくださいねという理解でよろしいか。

田島資源循環  
推進課主幹

こちらの考え方につきましては、入間市と現在広域化の可能性について検討しているという部分の課題で捉えております。

石本委員

以前、佐野委員長が一般質問で、ごみを有料化したときの得たお金で西部クリーンセンターの建て替えの費用に充てることも視野に入れているみたいな御答弁が、当時の環境クリーン部長から本会議場であったわけだが、このごみの有料化は、結局今の小野塚市長はやらないということを明言されたから、当然その財源は入ってこないもので、西部クリーンセンターの建て替えは、もう事実上ほぼ無理という感じで今、担当課は捉えているのか。

山屋資源循環

以前の一般質問でお答えした内容につきましては、有料化をした際に歳

推進課長

入が入ってくるわけなのですけれども、その歳入につきましては国のガイドラインの中で新しい処理施設に充てることも1つの使い方ということで記載がされていることもあって、その可能性についてはあるというようなことでお答えをしたものでございます。

西部クリーンセンターが最終的になくなって、その後の施設につきましては入間市との広域化も含めて、いろんな可能性というのを今まさに検討はしているところなのですが、財源がなかったとしても必要なものはつくらなければなりませんし、国の循環型社会形成推進交付金などの対象になる可能性というのがありますので、そういった補助金等も活用しながら、もし必要な施設が確定した場合には建設の方向で検討する必要があるものと考えております。

石本委員

でも、そうは言いながら入間との広域化を検討していることも最初の御答弁であったわけで、そうすると、来年からこの後期基本計画の4年間で、入間との広域化の話というのはどの辺まで持っていきたい、御担当のほうではこういうのがあるといいなみたいな感じのスケジュールでお考えになっているのか。

田島資源循環  
推進課主幹

令和5年度の燃やせるごみのごみ量が7万トンでございます。その量ですと、東部クリーンセンターだけでは焼却できないという状況がございます。あと、今後のメンテナンス費用とか、様々な費用もかかってくるよう

な状況でございます、処理量もそれなりに処理しなければならない状況でございます。

入間市とのそういったところを踏まえますと、トータル的に今、ごみの組成分析というものを行っております、市民のほうからどのようなごみが出てくるのか、そういったことを研究しながら、今後のごみ量の減量化をさらに図って、今年度中もしくは近年中に何とか結論が出るような形で可能性について検討を進めているところでございます。

石本委員

この下の1日当たりのごみの排出量、令和10年度市民1人当たり1日で404グラム、今でも433グラム、まず433グラムについて確認させていただきたいのだが、これはかなり県内でも少ないほうになると思うが、私の認識が違うのか。

山屋資源循環  
推進課長

埼玉県内ということで申し上げますと、かなり少ないほうの部類にはなるのかなというふうに考えております。ただ、一步都県境をまたぎまして東京都多摩地域などと比べると、まだちょっと多い部類には入るかと思えます。

石本委員

でも、その都県境をまたいだところは、大体ごみの有料化をやっているわけで、所沢は無料化していても433グラムで抑えていて、これで簡単に言うと、私のイメージは乾いた雑巾をさらに絞って404グラムにしろ

ということなのだが、結局これが達成できなかつたりするから、さっきの話に戻るが、処理ができないから広域化に話をつなげていくということで、元々無理な目標を設定していることが、結果的に達成できないと広域化につながっていくというような認識をしているのだが、その辺はどうか。あなたの考えは間違いだったら間違いとはっきり言っていただいて結構なので、その辺はどう頭の中で整理すればいいのか、ちょっとお示しいただきたい。

山屋資源循環  
推進課長

もちろん、ごみの焼却しなければならない量というのが減らなければ、現状で言いますと、やはり新しい焼却施設というのが必要になってくるといことにはなってしまう。ただ、焼却施設が必要だったとしても、あるいはもう東部クリーンセンターだけで賄えるよというふうになったとしても、どちらにしても、ごみ量というのは少なければ少ないほど施設のメンテナンス、あるいは維持管理、運営費等で経済的なメリットというのが出てきますので、ごみの少ない目標を掲げて、それに向かって減量化、あるいは資源化を進めていくということが、市民の方々の最終的にはメリットにつながるものと考えておりますので、ごみの減量化というような方向性というのはこれからも進めていきたいというふうに考えているところでございます。

矢作委員

評価指標のところの1日当たりのごみの排出量なのだが、過去5年分ぐ

らい何グラムずつ減少したのかというのが分かれば伺いたい。排出量の1日当たりのグラムの比較でもいいので、お示しいただけたらと思う。

山屋資源循環  
推進課長

今回評価指標として出させていただいている数値というのが、全体の1人当たりのごみ量からここに記載させていただいているのですけれども、事業活動から排出されるごみ量、これは事業系のごみです、それと、集団資源回収の量、それから、さらに資源ごみの量というのを引いている数値となります。過去5年間ということで、令和5年度がここに記載されている433グラムということで、平成30年度から申し上げさせていただくと466グラム、令和元年度が475グラム、令和2年度が同じく475グラム、令和3年度が460グラム、令和4年度が448グラムというようなことになっております。

矢作委員

どこかで聞いた記憶があるのだが、量を減らしていくのはなかなか厳しいというようなことをおっしゃっていたかと思うが、この5年間で引いていけばいいのでしょうかけれども、今後の見込みというのはどんなふうに見ているか。

山屋資源循環  
推進課長

今年度7月に新しい一般廃棄物処理基本計画のほうを施行させていただきました。この計画をつくる際に、かなり綿密に将来推計量というのを出させていただいております。減量施策を実施しなくても、人口の減に比

例して、ごみ量自体は減っていくこととなります。ただ、所沢市では、こちらの評価指標のとおりかなり高い目標を掲げておりますので、実際に積極的に施策を講じた場合の量というのも推計をしております、人口の減以上に減るような推計はしているところでございます。

施策につきましては、これまでもいろいろな場では申し上げておるのですが、御家庭、あるいは事業者もそうなのですが、庭の木等を剪定した場合に出る剪定枝、これは今は焼却をしているところでございますが、そちらの資源化ですとか、あるいは紙おむつ、こちらも事業系、家庭系ともに焼却をしておるのですが、こちらについても資源化をした場合のシミュレーションなどをしまして、施策を講じた場合にはかなり今後も減ってくるというような試算はできているところでございます。

大石委員

1999年に起きた所沢ダイオキシン汚染報道問題によって、その後、東部クリーンセンターができたが、大気汚染のダイオキシン濃度というのを非常に厳しく所沢市では見ていたと、他自治体よりも厳しく見ていたということであるが、先ほどの入間との広域化を今検討しているところだが、入間とのダイオキシン発生大気濃度とかの違いはあるのか。例えば、先ほどの話になると、所沢につくった場合と入間につくった場合では基準が変わるのかなと思ったのだが、どのような御検討なのか。所沢は特に厳しくしていたと思うのだが。

三浦環境対策課長 所沢市には、確かにダイオキシン類に関わる規制の条例がございます。ただ、こちらは埼玉県条例の規制値と同じですので、隣の入間市につくった場合と所沢市につくった場合で規制値が変わるというのはございません。

大館東部クリーンセンター所長 法的な規制値は、今、三浦課長から説明があったとおりです。東部クリーンセンターは、周辺自治会と協定というような形で、法律の基準値よりも厳しい基準値をお約束しているという事実はございます。

矢作委員 66ページの評価指標だが、以前の目標値だと100%というふうになっていたのを、現状値以上というふうに変更されているが、その理由を伺えればと思います。

三浦環境対策課長 光化学オキシダントというものの指標がちょっと関係しているということになります。光化学オキシダントが、実は全国的に目標達成が非常に低い状況でございます。そこで、国としてもいろいろな外的要因とか科学的知見を整理して、基準の見直しなどを見据えて検討が行われているような状況でございます。

所沢市でも、今までは排出減対策、具体的に言うと、大気の規制の事業所の立入りであるとか、そういった取組をしっかりとやってきておりましたけれども、全国的な問題ということもございまして、今言ったようなツ

ケの見直しということもありますので、現状値以上というような指標で設定させていただきます。

休 憩（午後2時31分）

（説明員交代）

再 開（午後2時45分）

（街づくり計画部）

【補足説明】 な し

【質 疑】

大石委員

所沢市立地適正化計画というのが素案の段階で入っていなかったもので、これまでの主な取組のところに入れたほうがいいのではないですかと申し上げたら入ったのでありがとうございます。

6-1-1の計画的かつ合理的な土地利用の推進のところ、総合計画よりも下位計画の所沢市立地適正化計画に基づいてと書いてきたけれども、下の所沢らしい景観まちづくりの推進のところにあるが、こういった文言を入れた、こちらのほうにも入れた理由はどんな議論があったのか。

増子都市計画  
課長

交通のほうでも確かに地域公共交通計画の記載がございまして、今後のまちづくりとしましては、コンパクト・プラス・ネットワークという大きな考え方がございますので、そのコンパクトというところを所管している

立地適正化計画、こちらを記載すべきというふうに判断をして記載したものでございます。

大石委員

旧暫定逆線引き地区や土地区画整理事業の実施などによりましてとあるが、この4年間、後期の間、北秋津、上安松、北原、下安松東、上安松西はどのように進んでいくか。

横山市街地整備課主幹

この4年間で申し上げますと、まず、北秋津、上安松地区につきましては、現在組合による造成工事が施行されておりまして、令和8年度末の完了に向けて市のほうとするとしっかりと支援をしていく予定でございます。

若松町地区につきましては、これは今年度中に事業期間が終わる予定でございますので、こちらについては事業をしっかりと終了させるように支援してまいります。

下安松東地区につきましては、令和5年10月に市街化区域に編入させていただきまして、今年度から造成工事のほうに着手している予定でございます。こちらは令和10年度末の完了に向けまして、市とするとしっかりと支援をしてまいる予定でございます。

最後に、上安松、下安松西地区につきましては、こちらは土地区画整理事業の認可には至っていない地区でございますが、現在、地権者のほうも住民組合の組織のほうで結成されておりますので、こちらのほうと調整し

ながら、早期の事業認可に向けてしっかりと支援をしてまいる考えでございます。

大石委員

用途地域などを適切に見直しますというのは、この土地区画整理事業の地域内ですかという確認と、それから、例えば所沢駅周辺の東側の部分のふれあい通り線の内側などは、都市計画の見直しなどを今後行っていく予定があるか。

横山市街地整  
備課主幹

まず、1つ目の前段の質疑についてでございますが、旧暫定逆線引き地区につきましては、現在市街化調整区域なのですが、用途地域の指定が残っている地区というふうになっております。こちらについても、今後の土地利用に併せまして、用途地域の変更についても併せて変更のほうを検討してまいりたいと考えております。

大石委員

参考までに、用途地域の変更は埼玉県都市計画審議会などにもかけるものなのか。

横山市街地整  
備課主幹

用途地域の指定につきましては、所沢市の権限になっております。ただ、市街化区域と市街化調整区域の変更につきましては埼玉県のほうの権限になっておりますので、そちらのほうと調整をしながら指定のほうは検討してまいりたいと考えております。

大石委員

6-1-2の土地利用推進エリアだが、産業団地創出のこの4年間の進捗状況はどのようになっているか。三ヶ島と所沢インター周辺と松郷工業団地周辺について。

横山市街地整備課主幹

まず、三ヶ島工業団地周辺地区につきましては、令和5年10月に市街化区域のほうを編入させていただきました、今年度から造成工事のほうを着手しております。こちらは事業計画ですと令和11年度末での完了を目指しておりますので、しっかりとそちらの完了に向けまして組合のほうを支援してまいりたいと考えております。

続きまして、関越自動車道所沢インターチェンジ周辺地区についてでございますが、こちらは三ヶ島工業団地周辺地区の進捗に合わせて、こちらが終了し次第、早期に取りかかれるように、現在、地権者のほうも発起人会の組織ができておりますので、こちらのほうと調整しながら、早期の事業認可に向けて取り組んでまいりたいと考えてございます。

最後に、松郷工業団地周辺地区につきましては、周辺で学校の開校ですとか、そういったこともされている状況でございます。こちらにつきましては、周辺の土地利用が大分進んでおりまして、空き地等が大分少なくなっている状況になってございますので、こちらにつきましては現地の状況を踏まえながら、どういった土地利用をしていくかというところを研究してまいりたいと考えてございます。

大石委員

先ほどに少し戻るが、北秋津、上安松、若松の区画整理事業が大体済んできて、公園整備というのは多分建設部の公園課だと思うが、所沢市のほうで工事できるようになったのか。もう供用開始したのか。

横山市街地整備課主幹

若松町地区につきましては、組合のほうと調整をさせていただきながら、組合のほうでも公園の整備をしていただきながら、あとは市街地整備課のほうでも公園整備をさせていただいて、こちらについてはもう現地に住居が出来上がりまして、人が住んでいただいておりますので、そういった方々へのサービスの向上も含めまして、供用のほうは開始をさせていただいている状況でございます。

大石委員

北秋津、上安松についてはいかがか。

横山市街地整備課主幹

北秋津、上安松地区につきましては、現在造成工事のほうをまだ進めている状況でございます。こちらについても、今後保留地の売却等が始まる予定になっておりますので、そちらの予定と進捗を合わせながら整備のほうを進めてまいりたいと考えております。

石本委員

これは部長に伺いたいのだが、前期もそうだったが、狭山ヶ丘の区画整理事業の記述が全くないが、これはどういう理由でこれを載せないのか。

昭和から始まっている事業で、前期の6年間でも1回更新時期が来ているし、今度の後期の4年間の間にも、それから更新して7年がたつので、また更新時期が来る。まず、狭山ヶ丘の区画整理事業というのは載せるとタブーだとか、何かあるのか。課題にすら挙がってこないという、その辺をちょっと確認させていただきたい。

遠藤街づくり  
計画部長

狭山ヶ丘の区画整理事業につきましては、委員御指摘のとおり昭和の時代から始まっている事業でして、今までの総合計画のほうにも特に記載というのはしておりません。

ただ、各年度で個別の事業はございますので、実施計画のほうは常に載せていて、優先事業としてはやっておりますが、特にここで何か、例えば狭山ヶ丘で何か実態が変わってくるとか、エリアが変わってくるとかというところで考え方が変わってくれば載せるべきことだと考えておりますが、特に今までと変更はございませんので、今回は載せていない状況でございます。

石本委員

そうは言っても、前期基本計画のときは平成で、昭和から始まって平成にまたいだわけで、元号を2つまたいで来ているわけですね。今回は令和になった。元号を2つもまたいでこんな区画整理事業をやっているところは、ほぼ全国的にも数えるほどしかないと思うが、今、部長はそんなに動きはないと言っているが、この間、私は建設環境常任委員会とかに結構長

くいたので、聞いていますと、大規模地権者の動きがあるかもしれないですからということで、どちらかという、委員会で視察に行くときに相当抵抗された記憶があるが、実際動きはないということなのですか。

遠藤街づくり

動きがないというよりも、全体の大きな事業としての変化がないという

計画部長

ことであって、個別の事業、例えば工事が始まるとか、地権者交渉が進んでいるとか、そういったことの中の事業については常に進んでおります。特に今回大型地権者に関しましては、相手方からいい返事をいただいておりますので、その件に関しては進んでおります。ただ、全体の大きな、区画整理事業として大きな変化がないというのは、区画整理自体の変化はないということでございます。

石本委員

いずれにしても、後期の4年の間に、また1回終わりの時期が来るわけで、これは大体終わるとい見込みでいていいのか。それともまた8回目か7回目、更新の二、三年手前になってきたら大体区画整理事業の見込みが立つではないか。まず現状どうなっているのか、やっぱりまた更新がされる確率がかなり高いというふうな認識でいいのかどうか。

遠藤街づくり

狭山ヶ丘区画整理事業につきましては、今工事が進んでおりまして、議員御指摘のとおり、これから更新というのは十分考えられる内容でございます。それにつきましては、地権者のこれからの合意等、全てそろえてい

るわけではございませんので、それが全て完了しないと事業というのは完了いたしませんので、それは時期がずれるということは十分考えられます。

大石委員

6-2-1、所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進は、一般質問でも花岡議員だったか取り上げられていたが、今後4年間を含めて、どのくらいの予算規模が投入される予定か、お示しいただきたい。

増子都市計画  
課長

今年度は、昨年とその前の年で社会実験等をやりまして、まちづくりのプレーヤーの方などを発掘できましたので、そちらの方たちの意見を聞いたり、勉強会をやったりということで、今年は予算規模としては10万円ぐらいのものですけれども、これからいろいろ話を聞いていく中で、来年度、再来年度に一体どういった事業が必要なのか、それから、どういったことをやっていくのかというのが決まってくるので、今の段階ではちょっとまだ決まっていないところでございます。

大石委員

今のは所沢駅周辺グランドデザインの中のTOKOROZAWA STREET PLACEなどの予算かと思ったが、私が聞いているのは、ふれあい通り線、線路の部分だけで82億円、西武鉄道へ支払う部分とか、そのほか、ふれあい通り線東側の住宅展示場だった部分が土地の買収整備工事とかがメインだと思うが、あとはどのようなことにお金がかかるか分

からないが、それを通してどのくらい所沢駅周辺にお金をかける予定か。

工藤所沢駅西  
口まちづくり  
担当理事

委員お話しいただいたように、前回、一般質問のほうでもちょっとお答えさせていただいているのですけれども、所沢駅ふれあい通り線につきましては、鉄道直下の部分と、あと、東口側の用地取得を含めまして約108億円という金額になっております。そのほかにも、東口側の構造物の整備ですとか、そういったものはまだ予算化をしておりませんので、工事費につきましては別途かかるという形になっております。あと、そのほかにも、西口の区画整理事業も、これから最後の追い込みになりますので、その部分でも一部事業費としてはかかるという形になっております。

大石委員

200億円ぐらいかかるのではないかと、全て構造物まで入れて。

工藤所沢駅西  
口まちづくり  
担当理事

ふれあい通り線の街路事業として見たときに、200億円という金額にはいかないと思います。180億円に対して、あと構造物で数十億円という形を想定しております。

大石委員

では、あと何があるのか。所沢駅周辺にぎわいまちづくり推進で、ふれあい通り線以外で、先ほど申し上げた西口で道路とか構造物を直すとかはあるのだろうかけれども、それ以外にかかるところはあるのか。大体目標としては所沢駅周辺というのはあと数年で、最低令和10年以降になってし

もうけれども、ふれあい通り線が供用開始になるのが、そこまでが大体の  
予算のかけ方じゃないのかなと思っていたが、日東地区のまちづくりとか  
をどんどん進めていくという考え方なのか。

工藤所沢駅西  
口まちづくり  
担当理事

基本的には、西口まちづくり事業として進めている中では、所沢駅ふれ  
あい通り線のほうの整備がおおむね形がつかますと、事業としてはおおむ  
ね終わりかなというふうには今考えておりますけれども、今年度も実施い  
たしますけれども、これから歩行者交通量の調査とかを行いまして、駅と  
して必要な機能というのが仮にあるとすれば、また別途それについては議  
員のほうにもお話ししながら、事業としては進めていく可能性はございま  
すけれども、現時点においては所沢駅ふれあい通り線のほうの整備が主な  
ものとなっております。

鎌田市街地整  
備担当参事

日東地区につきましては、骨格道路の整備事業の関係で、来年度は物件  
調査等の予算を要求していく予定でございます。あと、東町に、これは民  
間の再開発事業になるのですけれども、1件共同化ということで申請が出  
ております。こちらについても、国費を活用しながら事業を進めてまいり  
たいと考えております。

大石委員

工藤理事に聞きたいのだが、エミテラス所沢がオープンして、やっぱり  
予想したよりは車が実は来ていないのだけれども、おかげさまで電車利用

者とか、地元の人が多いみたいだが、所沢高校の前の踏切から所沢高校入口の交差点までが渋滞するおかげで、行政道路が所沢高校の踏切のほうに行く車が多いのか、今度は行政道路を真っ直ぐ走って行きたい人たちが進めないということで渋滞を招いているという状況が、最初から、それは私は5年も6年も前から言っていたけれども、やっぱりそれが現実だったなと思っている。では、交通量調査とかをしてから、一度、所沢高校入口の交差点は所沢駅西口の区画整理事務所で検討してくれたけれども、ちょっと無理だと思ったけれども、やっぱり必要ではないかなというふうに思ったのだが、今後の道路改正のためとかに交通量調査はやっていくのか。

工藤所沢駅西  
口まちづくり  
担当理事

私が先ほど御説明した交通量調査は、歩行者交通量調査であって、車の交通量調査を今予定はしておりません。

委員がお話しいただきました所沢高校入口のところにつきましては、以前から御指摘をいただいていた、市のほうとしてもいろいろ検討した中で、対応がちょっと難しいというお答えをさせていただいていたのですが、川越県土整備事務所や警察とも協議をしておりますので、そういった中でも何らかの動きというか、対応をできないかというのは、引き続き検討はしていきたいというふうには考えております。

大石委員

先ほど優良建築物のお話であったタワーマンション整備の見込みというのは、今後所沢駅周辺であるということによろしいか。市街地整備の適

正な誘導とか。

鎌田市街地整備担当参事 先ほどの優良建築物等整備事業に関係しましては、こちらはタワマンではない計画となっております。

大石委員 それでは、6-2-3に関わるが、市域の拠点となる駅周辺の都市機能の集積や充実、にぎわいの創出とともに、周辺に広がる住環境の保全を図りますということで、課題のほうにも市域の拠点となる駅周辺の活性化につながる取組について、検討していく必要がありますということで追加していただいた。所沢駅周辺にぎわいのあるまちづくりについては、この都市計画マスタープランでも広域中心拠点として定められて、本市の顔となる拠点の形成を目指していくということで、これで多額の予算が形成されてきたけれども、何が言いたいかという、広域生活機能都市計画マスタープランでは広域生活拠点として新所沢駅周辺とか小手指駅周辺とか東所沢駅周辺があり、定められていて、東所沢駅周辺はCOOL JAPAN FOREST構想があるからいいが、小手指駅周辺も西友小手指店リニューアルが決定して、皆さんがおっしゃっていた広場ができたりとかというふうな形になってきたので、それをどう活用していくかという話だと思うが、新所沢パルコの問題については、市民意識アンケートの調査などでも非常に多くあるし、請願も何度も出されてきたし、特別委員会からの

提言もある中において、教えていただきたい。どうして新所沢パルコの跡地とかは、最後私は意見でも申し上げてきたけれども、課題にさえも取り上げてもらえないのか。商業観光課、にぎわい創出のところでも聞いたけれども、どうしてこういった大きな課題が、まちづくりの大きな課題だと思ってくれる、市街地整備の中において書かれないのかというのをぜひ教えていただきたい。

大出経営企画  
部次長

以前回答した内容とちょっと重複する部分もありますが、課題としましては、この一番下の市域の拠点となる駅周辺の活性化につながる取組について検討していく必要がありますというところが、まさに新所沢パルコのことを包含して記載をしたというようなことで整理いたしております。

また、これまでの主な取組といたしましても、一番下なのですけれども、駅周辺における土地利用の活性化に向けて、事業者との調整を図りましたというのが、その部分に当たるところになっております。

大石委員

それでは、所沢駅周辺グランドデザインに示しましたTOKOROZAWA STREET PLACEというのが実施されたわけだが、その中に示された旧庁舎文化会館跡地といったものについては、こちらのほうでは記載をされないのはどうしてなのか。

高野街づくり

旧庁舎跡地の活用につきましては、何をつくるか、何に活用するかとい

計画部次長

うところではなく、そのオープンスペース、パブリックスペースとして使えるところについてを、ランドデザインのほうで活用拠点、活用ポイントとして検討していくということで掲載のほうをさせていただいております。

大石委員

それでは、椿峰まちづくりについては、前市長時代や藤村龍至先生と共に椿峰の課題に取り組んでいこうということでやってきたが、今後4年間は、このページなのかは分からないが、どこに含まれて、どういう検討、取組をしていくのか。

増子都市計画  
課長

椿峰の取組につきましては、今年8月に地区計画の関係というのが、これが都市計画決定されまして、これで1つの区切りを迎えたところでございます。

今後のまちづくり等については、こちらは84ページになりますけれども、これまでの主な取組というところで、上から3番目に記載をさせていただいているところでございます。

大石委員

評価指標なのだが、さすがに所沢駅の1日の平均乗降客数はもうそろそろ10万人を超えていい線まで来ているのではないかなと思うが、エミテラス所沢のオープンにより、ほとんどが電車で来られているみたいである。これが本当に4年間の評価指標でいいのかというのがあるが、今の状

況でどんなふうにお考えか。

鎌田市街地整備担当参事      こちらの指標につきましては、実際に令和5年度の所沢駅の乗降者の実績、プラス、エミテラス所沢と、あと東口の商業施設、こちらに約2万2,600人が来られるということを想定して、合わせて11万7,900人になるのですけれども、それで11万8,000人という想定をしているところでございます。

大石委員      さすがにちょっと所沢駅に一極集中、この書きぶりというのは、私は一極集中を促進していくような書きぶりだなというふうに思っていて発言を続けているが、では、逆ににぎわいが今なくなっている新所沢パルコとか、新所沢駅周辺とか、小手指駅周辺とかの乗降客数なども検討したほうがよかったかと思うが、今の段階でどんなお考えか。

鎌田市街地整備担当参事      こちらは前期から引き続きまして、本市の表玄関ということで所沢駅の利用状況を用いて、指標ということで引き続き所沢駅の乗降客数を指標としているところでございます。

石本委員      基本方針の6-4-1のところ、ところバスやところワゴンの充実を図るというふうには書かれているわけだが、ところワゴンもある程度数字が、三ヶ島路線、柳瀬、富岡と見えてきていて、以前の議会の答弁だと、

柳瀬路線はちょっと不調かなと、ほかの2つは順調だというふうな御答弁だと思うが、増便とか減便とかの調整は、向こう4年間でまずこの3路線で大体いくということになるのか。それとも、小手指とかあの辺で新たな路線をつくっていく方針なのか、その辺はどうなっているのか確認させてほしい。

村田都市計画  
課主幹

ところワゴンの運行状況につきましては、三ヶ島地区、柳瀬地区、富岡地区、3地区で運行しておりまして、富岡地区、柳瀬地区につきましては実証運行中でございますので、令和7年度末くらいまでは実証運行がありますので、この4年間はひとまず3地区で運行を考えております。その後につきましては、その時点で考えていきたいと考えております。

石本委員

そうすると、実証実験が終わるのが今御答弁のあった令和7年度末か何かだったはずで、令和7年から始まる4年間のうちの、もう1年間しかまらずは見えていないということで、その後の3年間は大体白紙状態なのか。それとも、たしか大館議員だったと思うけれども、小手指のあたりにも路線をつくってほしいみたいな、検討していただけないかみたいな内容の質問もあったと思うが、そういうのも含めて白紙状態ということか。

村田都市計画  
課主幹

先ほど委員がおっしゃられたとおり、柳瀬地区の運行状況があまりよろしくないというところで、実証運行開始から1年半たって、ここで路線の

見直しなども考えております。そうした状況も見ながら、あとは、地元の声なども聞きながら、今後どうしていくのかというところを考えております。小手指地区などの要望などもあろうかと思えますけれども、投入できる資源というのは限られておりますので、そこら辺を見ながら、効果を最大化するように運行を進めてまいりたいと考えております。

石本委員

ところバスがうちもこの9月いっぱいネオポリスを通るやつとかが廃止とかになったわけだが、運転手不足というのは課題にも書かれている。そうすると、例えば全体の便数が増えるというイメージよりも、柳瀬のところは減らすけれども、別のところにその分回すとか、そういうふうなトータルはあまり変わらないけれども、ということは部内ではどういふふうな検討状況になっているのか。

村田都市計画  
課主幹

ちょうど昨日、10月1日から富岡のバスが廃止になりまして、ワゴンに切り替わったところでございます。富岡で運行していたバスの便数、そうした部分につきましては、需要の多い小手指、狭山ヶ丘、新所沢地区を行き来するバス、輸送需要の多いところに振り向けたり、そういった工夫をしております。

今後も、例えば柳瀬地区のワゴンについても、路線をコンパクトにして、限られた運転手の中で、より最大で利用していただけるような工夫を進めていくところでございます。部内でもそのような協議をしております。

大石委員 ところバスの無償化の議論というのは、どのような計画で進んでいるのか。私はどうかなと思っているが。

村田都市計画課主幹 高齢者無料化の議論につきましては、交通事業者と協議を進めているところでございます。具体的な中身につきましては、まだ御報告できる段階にはないかなと思っております。

大石委員 交通事業者というのは、タクシー業界とか、民間のバス運行事業者か。

村田都市計画課主幹 ところバス、ところワゴンの無償化については、それぞれ運行事業者であります西武バス、西武ハイヤーと協議を行っているところでございます。

大石委員 影響を受ける地域公共交通会議の中にも委員として入られているけれども、タクシー業界の人とか、西武バスとか入っていると思うが、そういった人の御意見はどのような意見ですかと聞いている。協議されていると思ったので聞いている。

村田都市計画課主幹 こちらから御提案したところは、費用面のお話です。補償料が増えますので、そういったお話ですとか、運行事業者からいただいているお話とし

では、無償化することによって路線バスにどのような影響を与えるかというところはお話はいただいているところでございます。

大石委員

今のは市長からの公約なので検討しているという形なのだろうけれども、一般質問の中でもあったが、新所沢駅のホームドアの設置というのが発表されて2年ぐらいたっていると思う。今の状況と、補助金とかを出していく必要があるかと思うが、状況について確認をしたい。

村田都市計画  
課主幹

新所沢駅のホームドアにつきましては、西武鉄道株式会社が公表しております計画の中で、令和7年度末までに事業に着手する駅というところで記載されているところでございます。補助金につきましては、西武鉄道のほうからお話がありませんので、今のところ市として動いているところはありません。

石本委員

先ほどの大石委員の質疑に関連してなのだが、無償化のところ民間バスなどの影響などが言われているみたいだが、現実、例えばところワゴンだと8人乗りで、満員になって2台目が来てもらうのに20分以上かかるとか、私なども結構そういう御意見を寄せられているのだが、無償化になったらますます混んで、2台目が来るのが大変になるのではないかというのがあるのだが、例えば、今走っている地域の自治会の人とかに意見を聞いていくとかという作業をするお考えはないか。ただ交通事業者だけでは

なくて、その辺はどうなっているか。

村田都市計画課主幹 地域の方との意見交換会というのは定期的に行っておりますので、そうしたお話も今後伺っていければと思っております。

石本委員 今までところワゴンがスタートするときは、満員になったら、例えば三ヶ島なら2台目の緑色の車が来るとか、そういうふうな説明を受けていたわけだが、私が地域で聞いている限りでは、西武ハイヤーの普通のタクシーが2台目としてやってくる、オレンジ色の車がやってきたのはほとんど見たことはない。

その辺は、例えば、簡単に言えばハイヤーだと4人しか乗れないから、また2台目がすぐ埋まっちゃうという話も聞いているわけだが、最初の2台目を出すと言っている話というのは実行されているのか。その辺は担当として把握されているのかどうかも確認させていただきたい。

村田都市計画課主幹 後続便について、ワゴンではなくハイヤーが来るということは承知しております。ワゴンにつきましても、限られた台数の中でやっておりますので、そのときに出せる車両を出して運送していただいているというところで認識しております。

福原委員 評価指標だが、交通政策に関する施策の満足度で、現状令和5年が34.

7%で、目標が令和10年が53%となっているが、まず、この53%の根拠は何か。

村田都市計画  
課主幹

53%の根拠でございますが、令和5年3月に策定いたしました地域公共交通計画、こちらにおいて令和9年度における交通政策への満足度を52.1%と設定しております。こうしたことから、後期基本計画においてはその翌年度でございますので、令和10年度はそれを上回る53%としたものでございます。

福原委員

その52.1%という数字も根拠がよく見えないのだが、いずれにしても、それを達成するための動きとして、ここに課題として幾つか挙げている利便性の向上とか、あと、さっきあった運転手不足の件とかもろもろあると思うが、こういったものをクリアにするための具体策としてどのようなことが挙げられるのか。先ほど、大石委員のほうから無償化の話があった。あと、コースを変えたり、停留所を変えたりということが想定されるのだが、それ以外に何かあるか。

村田都市計画  
課主幹

委員がおっしゃるとおり、路線をコンパクトにしたり、便を増やしたりとか、利用料を下げたりといった施策、こういったことはもちろん効果的だと思うのですが、何より重要だと思うのは、地元の利用されている方々の意見をちゃんと把握するというのが一番大事なのかなと思

っております。

福原委員

地元の方の御意見というのは、具体的にどのようなものがあるのか、分かる範囲でお示しいただきたい。

村田都市計画

課主幹

率直な意見としては、やはり便を増やしてもらいたいとか、御自分の利用されている、行きたいところにすぐに行けるような路線を組んでもらいたいとかというようなところが多いです。全てをかなえることはできないのですけれども、なるべく多くの意見を収集した上で計画を立てていきたいと考えております。

福原委員

今の感じの取組で、53%にいけるといふ確信があるか。

村田都市計画

課主幹

確信があるかと言われると、ちょっとなかなか難しいところではございますが、地域公共交通計画に沿った事業を的確に進めていくことでクリアしてまいりたいと考えております。

福原委員

先ほどの無償化の件とか、あと、停留所を増やす云々とか、地元の方の声を聞く、聞けば聞くほど市民サービスの向上につながって、いろいろな形で利便性が上がっていくということだと思ふ。そうすると、一番の壁が民業圧迫、これがやっぱり大きな壁になってくると思ふが、これがある限

り今までもいろんなお話は聞いていて、対策をいっぱい練って、コースを変えたり工夫されていると思うが、それでもほとんど大きな効果はないのではないかなど。実際に現状の満足度がそんなに大きく上がっているわけではない。あと4年間で53%まで上げるというのはハードルが高過ぎるぐらいのイメージで考えているが、この民業圧迫に相当する部分の議論というのは具体的にどのような形で民間事業者のほうと、タクシー事業者含めてされているのか、その辺の動きというのが分かる範囲でお示しいたきたい。

村田都市計画  
課主幹

公の部分と民間の部分での競合の部分での話合いということでございますけれども、具体的に交通事業者とそのようなお話をしていることはございません。現時点でも民間でやる部分と、ところバス、ところワゴンでやる部分というところは明確にすみ分けをして事業が行われていると思っておりますので、もし今後そういった事態があった場合は協議を進めていく予定です。

佐野委員長

この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

島田副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

佐野委員

石本委員、福原委員の質疑をお聞きして、私もちょっとぴんと来るところがあったのだが、ところバス、ところワゴンの充実というところで、ところバス、ところワゴンは現在、遅延の問題とか要望は住民のほうから上げられているか。

村田都市計画

ところワゴンにつきましては、おおむね定刻どおり運行しているという

課主幹

ところでございまして、ところバスにつきましては、若干路線によっては遅れが見られるところがありまして、お問合せ等をいただくこともございます。

佐野委員

福原委員と私の地元というか近所ではあるが、近所に大変大きな施設ができて、それがところバスの幹線の路上にあるもので、今後非常に大きな遅延というものが予測されるのではないかと思うが、その際の何か対策とかは想定されているか。

村田都市計画

ところバスの渋滞対策につきましては、ちょうど昨日、10月1日から

課主幹

ところバスのバスロケーションシステムというものを導入いたしまして、スマートフォンを持っている方であれば、御利用するバスが現在どの位置にいるのか、何分遅れで運行しているのかといった状況が一目で分かるようなシステムを導入いたしましたので、これから周知に努めてまいりたいと思います。

島田副委員長

それでは、委員長と交代します。

休 憩（午後3時34分）

（説明員交代）

再 開（午後3時37分）

（建設部）

【補足説明】 な し

【質 疑】

石本委員

交通安全のところでは伺いたいのだが、今年度になってカーブミラーの予算とか、あと、市が管理する街路灯、この予算がかなり減らされているという話を聞いているが実際に減ったのか。

山田道路維持  
課長

今年度分につきましては、道路安全施設修繕費等につきましては、前年度ベースとほぼ同じ形で予算のほうはつけていただいております。

奈良建設総務  
課長

石本委員の今の御質疑のうちの街路灯の部分でございますが、こちらにつきましても、街路灯といいますか、道路照明灯の関係の予算については、前年度と同じ予算をいただいております。

石本委員

問題は、予算は一緒でも今は物価高で、そうすると設置件数とかはどんな状況になっているのか。

山田道路維持  
課長

昨年度分につきましては、カーブミラーは36基設置しております。今年度分につきましては、委員がおっしゃるとおり物価上昇分もございませぬ。あと、所沢駅西口区画整理事業に伴いまして、自転車レーンを整備したことによりまして、今年度分のカーブミラーにつきましては26基の設置予定となっております。

奈良建設総務  
課長

道路照明灯につきましては、もともと予算上、計画棟数等は設定しておりませぬので、現状としては予算の範囲内で対応しているところでございませぬ。

石本委員

向こう4年間で、来年度以降のことでちょっと確認させていただきたいが、一時期にカーブミラーが2年待ちとかという状況になっていて、それを皆さん頑張っていただいて、1年待ち、半年待ち、分からないがかなり縮まってきた。このままでいくと、来年から4年間、要するにいろいろと無償化政策の影響が、そちらのほうの部署にかなり影響が出ているのではないかなどのお話もちらっと耳にするわけだが、また待ちの期間が長くなりそうなのか。

山田道路維持  
課長

今年度分の設置26基の内訳につきましては、令和4年分の2基、令和5年分に要望を受けた24基の計26基を予定しております。

来年度以降につきましても、今年の令和5年度の残りの部分と令和6年度に要望を受けた分を来年度も設置する予定でございます。

ただし、要望につきましては、この先の見込みも不明なところもございますので、この先4年間で待っていただく期間が1年になるか、2年になるかというのは、今の状況ではちょっと申し上げることができません。

大石委員

カルチャーパークは、未来会議というものがやって、今度いろいろな事業を行うようだが、この後期はどんなことを考えられているかだけお示しいただきたい。

相沢公園課長

カルチャーパークにおきましては、今、委員御案内のとおり、令和5年度より今年度もカルチャーパーク未来会議というものを開催させていただいて、公募した延べ50名の委員の方と、カルチャーパークについて2年間にわたっていろいろと議論を重ねてまいりました。委員の中には、カルチャーパークでこんなことをやってみたいとか、カルチャーパークの維持管理をこのようにやってみたいとか、いろいろな考えを持った方が50名集まって、今後につきましては、その方々が中心となって我々がバックアップして、カルチャーパークを利用していただいでイベント等を開催していただいたり、あとは先ほど申し上げましたように、例えば下草刈り、

落ち葉掃き等も、イベントをやりたいよと言われた方々を仲間にして落ち葉を掃く人数を広げていったりとか、そういったことが現在計画されていますので、今後も効果的なカルチャーパークの利用と維持管理に向けて努力してまいります。

大石委員

それでは、北秋津、上安松土地区画整理事業の緑地や公園が創設されるはずだが、その管理運営、もしくは若松町もそうだが、整備は市街地整備課が行ったりしているとかを聞いたが、公園課としてはどのくらい関わるものか。

相沢公園課長

現在、組合が施行している区画整理地内で築造された公園につきましては、所沢市のほうに移管を受けた際には、おっしゃるとおり公園課のほうで維持管理をするようになっていきます。その維持管理方法でございますが、基本的には委託発注にて行う予定ではございますが、今後につきましては、地元のいわゆる自治会等から、軽微な作業だったらやりたいよという御意見も伺っておりますので、そちらの方々とボランティアの契約といいますか、そういった手法を取り入れながらメンテナンスのほうは行っていきたいと思います。

大石委員

先ほど街づくり計画部でちょっと聞いたのだが、公園の上物の整備は公園課ではなくて、区画整理の組合とかが行うものなのか。

相沢公園課長

基本のお話になってしまうのですが、所沢市としましては、全て上物までおっしゃられるとおりに出来上がって、公園名まで決めていただいて、移管を受けるという考えでございます。

石本委員

これは道路全体になるので部長に伺うが、いろいろ今、財政が厳しくて、建設関係の予算でAランクの事業がきちんと予算が確保できないのではないかと、そういううわさも私の耳に入ってきたが、まず、来年以降はそういうのはきちんと確保できそうなのか。要するに、給食費の無償化とか、そういうところで財政が厳しいので、結構建設関係の予算が切られるのではないかと、厳しい査定が入るのではないかと話も耳にするのだが、その辺はどんな感じに見込んでいるのか。建設部、特に道路はお金がかかるから。

肥沼建設部長

私どものほうで計画しているものがあります、北野下富線であったり、そういったものは着実に進めていけるように予算化していきたいというふうに思っています。

石本委員

では、何%とか、そんな具体的な数字は言わなくてもいいのだが、ちなみに今年度は確保できたのか。要するに、本当ならAランクの事業で、例えば1億を取らなければいけないところが8,000万円になっちゃった

とか、そうではなくて1億をきちんと取れていたとか、その辺はどうなっているのか。

肥沼建設部長

私たちのほうで要望したものに対して、全てが要望どおりというわけにはいきませんが、ある程度、大まかには進めるべきものについては予算は確保できたものと考えております。

矢作委員

87ページの6-3-1で幹線道路の整備推進だと思うが、前の計画のところで東京狭山線とか飯能所沢線が入っていて、東京狭山線はもうできたわけだが、飯能所沢線というその路線名を書くことも必要かと思うが、書かれてはいないのだがどういう検討だったのか。

岩崎道路建設  
課長

前は、飯能所沢線、県事業についての記載は6-3-2というところでありましたが、今回同じ幹線道路、6-3-1と6-3-2共に幹線道路という位置づけでございまして、何が違ったかといいますと、6-3-1は市の事業、6-3-2は県の事業で別々に記載されておりましたが、今回、内容がもう重複しているということもありまして、基本方針を1つにまとめたというところがございます。ただ、整備の内容とか、我々の姿勢としては変わりはありませんので、そういった一本化したということがございます。

福原委員 87ページ、6-3-3、歩行者・自転車環境の整備推進だが、文言の中では計画的な歩道の拡幅整備とあるが、4年間で具体的な計画は何かあるのか。具体的にあればお示しいただきたい。

岩崎道路建設課長 令和7年から10年の間の目標につきましては、進めるべき路線はありまして、今決まっているのは3路線の事業を進めていこうということで考えております。

福原委員 その3路線はどこか。

岩崎道路建設課長 こちらの路線につきましては、まず、市道3-3号線、下富通り、あと、市道4-1386号線、上藤沢・林・宮寺間の新設道路、あとは、市道5-4号線といいまして、県道青梅線の狭山湖入口交差点のところで交差点改良等を含めて実施する予定でございます。

福原委員 下富3-3と今お話しいただいたので、かなり難航しているというか、進まない状況もあると思うが、4年間で進めそうな感じの見込みがまずあるのかということと、あとは、3路線と聞いたが、それ以外に地域とか様々なところから御要望というか、市の中でのここは拡幅すべきだというもの、候補みたいなものがあるのかどうか、その辺を分かる範囲でお示しいただきたい。

岩崎道路建設  
課長

まず、3-3の状況というか、今後の見込みですが、7年度から工区を分けていまして、最後の工区に着手する予定で、その中で4年間で完了させる見込みで我々は進めたいと思っております。

ほかの路線につきましても、市で進めるべき路線は、御要望をいただいた路線はありますが、優先順位をつけて最優先とか、そういったものを計画的に進めている状況でございます。

石本委員

先ほど部長から、でかいAランクは大丈夫だということで聞いたのだが、道路維持課のほうで確認したいのだが、令和5年度の当初予算は10億4,500万円だったのが、今年度の当初予算は8億9,600万円で、約1億5,000万円、要するに15%ダウンした。当初予算ベースでいくと、15%も当初予算で減らされて、さらに物価高のこの御時世で、道路維持関係で今この課題の一番下に巨木化、老木化とか維持管理も検討していきますと課題に挙げられているけれども、この辺というのは15%もダウンしていても大丈夫なのか。

山田道路維持  
課長

委員御指摘の15%のダウン分につきましては、街路樹整備事業と、あと、道路の維持修繕費の事業につきましては例年どおり予算のほうはいただいております。減額分につきましては、その他の道路の工事等で、今年実施していない分について減額をいただいておりますので、今のところ維

持修繕、今年度分に関しては対応できております。

石本委員

そうすると、予算要望をかけていくときに、来年度の予算要望をこれからしていく、詰めていくと思うが、普通は今年度の予算がベースになって議論していくと思う。元々令和5年度は減らされているわけで、そうすると、来年度以降4年間は影響があると思うので確認したいのだが、少なくとも来年度の予算要望というのは、今年度の予算をベースに要望していくということでもいいのか。

山田道路維持  
課長

委員がおっしゃるとおり、今年度のベースで基本的には要望させていただき予定でございます。その先につきましては、財政部局とのヒアリングの中で調整させていただきたいと思っております。

**【質疑保留】**

休 憩（午後3時56分）

（休憩中に協議会を開催）

再 開（午後4時10分）

佐野委員長

議案第86号「第6次所沢市総合計画後期基本計画の策定について」の

各委員の修正を望む意見については、次回の当委員会開催前の令和6年10月15日までに議会事務局へ書面により提出され、全意見をまとめて各委員に事前共有することとしてよろしいでしょうか。

(委員了承)

佐野委員長

次回、10月22日の当委員会では、各委員から提出される修正を望む意見について協議してまいりたいと思います。

散 会 (午後4時12分)